男女貞潔之理想　會長 島田三郎

公娼廢止之主張　副會長 安部磯雄

5—841

廓清

明治四十四年八月一日創刊
大正七年十一月　日第三種郵便物認可
（大正九年十一月十日印刷）
（大正九年十一月十日發行）
（毎月一回十日發行）

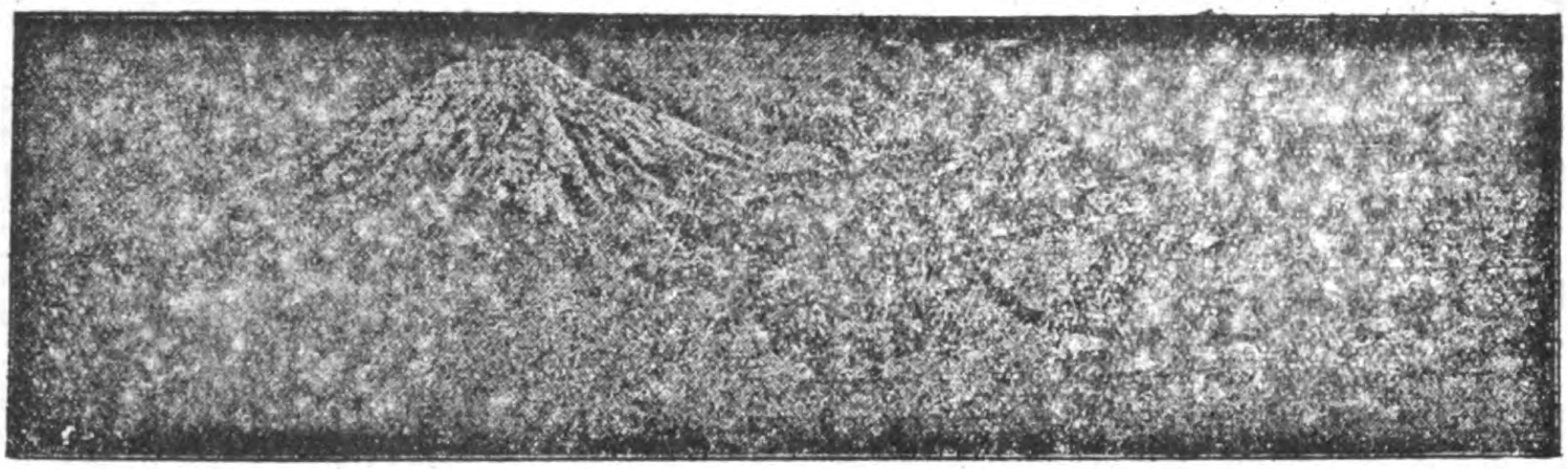
第十卷第十一號

□日本世界的孤立　廓清會々長　島田三郎
□新マルサス再論……廓清會副會長 早大教授　安部磯雄
□住宅難緩和の策……廓清會理事　高島米峰
□法律から見た出生…法學博士　穗積重遠
□男女の生存は競爭か互助か　一條忠衞
□社會問題としての生活問題　法學博士　吉野作造
□禁酒の偉力………ドクトル　ブール
□黎明と闇黑面…………　K A 生
□改造の眞理……廓清會評議員 成女高女校長　宮田脩
□理想と生活苦（二）………　足羽清美
□娼妓病院手記（十三）前某驅黴院看護婦　田口和子
□在支同胞と飲酒（上）於上海　小原榮次郎
□編輯の後…………………　圭英生

東京　廓清會本部發行

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY



日本の世界的孤立と其轉期

經濟會長　島田三郎

○積極政策高唱の行詰り

明治の改革を經て五十三年の今日に於て、維新當時舊幕の弊政を一掃し得たが、革新の精神衰へて各種の新なる弊害再發し、殆んど行詰まりとなりたる如く見える。世界の大戰を經て、列國は何れも努力して新社會を現出せんと、思想家は理想を胸中に描き、政治家は事實を理想に近けんと活動してゐるが、我日本は目前の塵を拂ふて一日々々の生活を持續するのみて、僅に外國の新思想を斷續的に紹介するものはあるも、一定の方針を立てゝ民心を之に集注すべき標目は何れにも見ることが出來ぬ。政府は内治外交に一定の政策なく、自稱積極主義を高唱して一時の景氣に乘じ、無識の多數を引付けんが爲めに前途に見込なき放漫の事業を企つるに委せ一旦財界の反動に會ふて是を實行するの見込立たず、殆んど停電の姿となつて進退に困つてゐる。目前のこと如斯てあるから永遠の見込全く絶望の姿である。要するに上下擧つて今日のことを處理する外、明日の見込を豫定するものはない。實に心細さは現下の狀態である。

此の大勢を挽回するには、人々が眞面目に歸つて、社會共存の正道に歸るの外活路がない試みに其一事を曰はんか、内政に於ては堅固なる財政の方針が必要であり、外交に於ては失墜した國の信用を恢復せねばならぬ。各種の問題を論ずれば限りないが、此に擧げた二大綱に就て少しく説明を試みやう。

○世界に於ける日本の信望

世界の變動に乘じて一時の景氣に醉ひ、物價騰貴の爲めに生産者が元氣づいて、假りに繁昌の景氣を現はした此半面を見て、之を國力の增進と誤認し、他の半面に消費者の非常の痛苦あるを

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

見通した。是が爲めに精神上の活動者は殆んど瀕死の狀態に迫つた。生産者は倨傲奢侈の生活を續けて墮落の淵に沈んだ、社會の組織は是が爲めに壞崩した。國家全體を見渡して社會の整理を司るべき政府は却つて全部を通觀して之を調和整理する緊要の職務を忘れて、妄りに財政を膨脹せしめた。現在の有樣は其の反動の結果として製產は衰へ收入は減じ、物價は是と同時に下らぬから豫算は膨脹した。基礎ある收入によつて政務を行ふことが出來ぬから、勢ひ公債に依賴せねばならぬ。併し乍ら長期の有利なるものを募るだけの信用を缺いてゐるから、多く短期の公債に依ることゝなつたが、此の公債すら現在の有樣では危險を將來に含て居るけれども、目前に於ては一種變態の僥倖からやうやく急場を間に合はせることが出來た。蓋し一般の信用が低落して銀行が危險であるから預金を引出す新に預金することを躊躇するから其預け場所がない。政府の公債が比較的安全だといふので是に應じたるに過ぎぬ。かくして此の短期の公債も借り換へ借り換へして目前を凌で居るから其總額は增すのみである。

今や日英同盟の締結期が迫まつてゐるが、多年同盟の利益を收めて、殊に大戰中には英國も日本の同盟を大に尊重して居つたに拘らず、今日に於ては此の同盟を繼續すべきや否やが疑問となつてゐる。特に濠洲や加奈陀の植民地の議論は不同意を表せんとする形勢である。日本の事情に通じてゐるといふ某外人が、日本の世界的孤立といふ書を著はした。是は無名であるが或人は和蘭の外交官であるといふてゐる。多分そうであらう。此の一篇を讀んでも世界に於ける日本の信用は極めて低落してゐることを知るのである。是が爲めに支那も日本を疎外する。露人は直接對敵の歐洲諸國よりも日本に對して不信の念が强烈であるといふ者がある何れにしても日本は自ら顧みて世界の信用を恢復せねばならぬ。

○朝鮮統治益々失敗

又日本の新領土も外に對する信用の緩むと共に、其人心が信服せぬ度を加へ來るのである。別の機會に於て臺灣を論じやうと思ふが、差向き切迫して居るのは朝鮮の問題である。昨年三月の騷動から大分改革したと傳へられてゐるが、日本の政務に服せざる鮮人の反對運動は却つて高まり、間島方面から朝鮮の國境は引續いて騷動してゐる。從つて半島一體の人氣も穩かでない。是に對する政策は別問題にするが、大體を云へば朝鮮人に對する差別待遇は、根本的に除かねばならぬ。是には從來の物質的開發の誤まりを捨てゝ、彼等を信服せしむる善政を布くべし。第一に敎育の平等である。此目的を達するには精神的に公明なると、物質的に敎育機關の設備が必要であるが、是に伴ふ費用は差向き朝鮮の豫算の增加が緊要である。然るに齋藤總督が此の目的の爲めに入京した際高橋藏相の最初の發言は、財政の切迫一錢の餘地もないといふたと新聞に報ぜられてゐる。今年の春迄極めて樂觀て居つた藏相が、極度の悲觀論者となつて、此の內外に對する信用を國土の安全に緊要なる朝鮮の改革費に、一文の餘地がないとの悲鳴を揚げてゐるのは、驚く可き無定見なる失態の自白と云はなくてはならぬ。此の一事に見ても定策なき政治の心細さが切實に感ぜらるゝではないか。如斯内地人すら一切

の信用を置く能はずんば、世界列國が日本の輕薄なる國情を信ぜぬのも止むを得ぬ結果といはなくてはならぬ。

○教育擴張今果して如何

戰後の第一の策として教育の改善は、列國の均しく高調する處で、國家の存亡を賭して戰ひつゝある間にも、一面には教育改善の調査委員を設けて諸國は之に努力して居つた。戰爭中比較的利益の地に立つて外に兵を用ふるも内は全く平安なりし日本が、戰ひ終つて今日尚教育改善に一定の識見を缺いてゐるとは、眞に沙汰の限りである。中橋文相は一時の景氣に乘じて高等學校專門學校の増設、學校の昇格其他を計劃して稍極方針の一部として教育の振興を誇大に吹聽したが、現在の形勢は果して其の豫言の如く實行し得るや如何。經濟界の一變は此の豫定を裏切つたではないか。財界の變動から一般の歳入は減じた。大なる生産者は悲鳴を揚げて救濟を政府に求める程の悲境に陷つた。政府は姑息の瀰縫をしてゐるから、整理の時期が遲れて大なる生産者が悲境に陷つて、大相場は下落しても、其割合に一般の物價は下落せぬ。故に原料も勞銀も割合に下落せぬから學校の新設費はやはり省減せられない。此の學校の建設費に就ても地方の人氣を利用して黨勢の擴張に充て、又是を餌として地方の人々を競爭せしめたから、其地に學校を引付けんが爲めに獻金を豫約し、是が建設費の多分を占めてゐたから、財界の不景氣は此の豫約の献金が思ふ樣に集まり難い狀勢である。或は此の計劃の實行は不可能の地もあらう、或は困難を訴ふる者もあらう。加ふるに深慮の結果定めたるものでないから、破綻百出と豫言するも恐らくは妄言ではあるまい。

且つ高橋藏相が樂觀の聲明を變じて悲鳴を揚げてゐる今日、朝鮮の費用の豫算がないと同時に國庫其物に多くの餘地がないてあらう。從つて多くの教員を海外に派遣留學せしむることも困難てあらう。ドラッグや仁丹の廣告の如く看板を揚げて呼び聲は高いが、利き目は決して其聲の如く大ならぬてあらう。要するに輕薄なる政府の言動は、國民を醇化すべき教育の方面にさへ現はれてゐるのは、歎息の極度である。

○失職者救濟と危險思想

吾人は僅に朝鮮政治と教育擴張の上に一言したが、凡ての政務の上に此色は濃厚である。社會政策に就て云へば、此の不景氣の爲めに失職者が續出する。之は會社組織の爲めに危險の一大原因てある。通貨を膨脹して無限に生産の利益を夢想せしめた爲めに、生産の非常の過大なる過剩を現はした。忽然と之が停電した。競爭して集めた勞働者は一時に解雇される。各所の製造所然り、各地の礦山然り、日々解雇の數が殖える。現在の人が職を失ふならば今後學校て養成した各種の技術者は、何れも不就職の困難に逢はねばならぬ。當局は茲に各種の紹介所を設けるとか社會局を建てるとかいふが、求むる者がありて紹介所は働けるが、求むる者がなければ紹介所は有名無實のものとなる。何れにしても今の人情は唯其名義と形式とを求めて一時を糊塗するに過ぎぬ。原因を除かずして表面を繕らうてゐる。此の失職者は景氣のよい時代に相當の給料を取つて、戰爭前よりは生活の度を高めてゐる。目前に迫まる饑寒は如何にして遁れることが出來るか、

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

商工業の膨脹の爲めに各專門學校も大學も皆商工業候補者の養成に努めたが、此の不就職者は相當の能力を懷いて身を容るゝの地がない有様で、其の心理狀態は社會に如何なる影響を與ふべきか、政府は危險思想の海外より來るを恐れ、原書の輸入すら之を檢査して阻めんとしてゐる。生活の度を高めた上に、物價尙未だ下落せずして無職者の增加するといふことは、海外より來る危險に非ずして國內現實の危險である。此の危險を如何にして除かんと思想に非ずして事實である。の定策があるか、枯枝には火が燃え易いが、石礫には火がつかぬ。社會其物が健實であり、一體の思想が平和の氣風を帶びてゐるならば、如何なる新思想が海外より來るとも燃燒の憂がないのである。

○露國の過激思想と英國の對照

比較的外國の文字を解せざる露國人民は小數者の活動によつて一般に社會解體の禍を受けた。之は海外より入り來る思想に非ずして內に不健全なる狀態を有してゐた結果と見るべきである。英國は、封建時代の遺習を破らんとした卽ち礦山の持主が座して過當の利益を受けてゐる。これを破らんとして礦夫の同盟罷工があつたが、一般の工業を涸渇して國家を危くしてはならぬとの反省が、他の方面に起つて、鐵道運輸業者の三角同盟は成立しなかつた。礦夫の要求にも道理がある、併し一時には出來ぬとの社會一般の考慮があつたから、危機を半途に防ぎ得たのである。帝政時代の露國は他國の新思想を防ぐに全力を注いだ國である、ロマノフ朝唯一の政策は時代後れの宗教政治の合力自由の抑制言論の壓迫であつた文化の開發と政治の民衆化は、全く之を閑却して居た多年此愚蒙の政治を行ひ、官界の腐敗は社會を惡化した其結果彼の如き禍害を受けたのである。英國は是と反對で、諸國の被迫害者が倫敦に集まつて、勝手次第の議論を討はし、其處に出版する書物を言論不自由の故國に傳播した。勿論露國に送つたのである。他國の危險人物が英國に來つても餘りに之を束縛しなかつた。勿論國內の新思想は之を自然の狀態に放任した。斯くして其害を受けるものは大陸抑壓の國であつて、其害を免れたのは島英國であつた。

此の實例を見ても、危險の事實を除くのが平和を維持する賢明の政策であつて、新思想を危險視して之を抑壓するのは、是を蔽ふに過ぎずして根治することは出來ぬ。身體を丈夫にして寒氣に觸れても風をひかぬ養生法が活動的人物の取るべき保養法であり、外出すれば風をひくから引籠つてストーブにあたつてゐやうと考へてゐるのは、病人の退嬰姑息の保養術である、要するに禍は其源を防ぐにあつて、其末を蔽ふべきでない。此等のことは自明の理であるから、先以て人が靜思熟慮して眞面目に歸れば相當の考は出るものである。不自然の經濟狀態を戰時及び戰後に制せずして、驕奢放慢淫逸倨傲に流れて、之を國家の繁榮と考へ居りし誤れる思想が、事實の上に社會に此の大なる弊害を齎らしたのであるから、今日に悟らないならば、外は益々信用を失ひ、內は如何に議論の發表を制しても、事實の上の災害は決して是を止むることは出來ぬであらう。卽ち繰返して日本國民の反省を促す次第である。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

再び新マルサス主義に就いて

廓清會副會長
早大教授　安部磯雄

□人口は減少せず

私が『廓清』に新マルサス主義のことを書いて以來、大分社會の問題となつて、種々な批評が出て來たのである。その批評が何時も起つて來るので、何も珍らしいのではないが尠こし辯解して置き度いと思ふのである。

夫れは、若し新マルサス主義が行はれることになると、人口が非常に減じて來はしないかといふことであるが、無論人口の減ずることは覺悟せねばならぬ。然し人口が減ると言ふても、今まで存るものが減るのではなくて、今までの殖えつつあつた人口增加率が減るのであつて、今まで存る人口が決して減るとは思はれぬ。假令んば減じるとしても、單に國家の爲めに可否と言つて、新マルサス主義は論議することは可能ない。

□生活難の緩和

誰しも國家の爲めを考へるが、先づ自分の事を考へることとが必要である。或る場合には國家の爲めよりも自分の事を考えることがより必要である。極端な事を言ふならば、貧しい人が澤山の子供を持つて居るとして、その人から觀れば澤山の子供のあることは良くないが、それは國家の爲めだからといふやうなことは言へないことだと思ふ。若し國家が食糧の保證をして居るなら、産兒制限の命令も出來るだらうが、全然國家は個人の生活の保證をして居らないのだから、出産兒を制限することにも個人の自由である。それ丈け個人が國家の爲めに犧牲にならなければならない筈はない。

若し極論をするならば、有産階級は疾くから出産の制限をして居る。物質的にも凡てに潤澤な生活に餘裕のある、そして幾ら子供があつたからとて一向に差し支えのない有産階級には既に行はれて居るのである。然るに生活に差し支えのある貧乏人には子供が澤山に産まれる。であるから無産階級に係ういふ思想を知らせ度い。けれども無産階級の者は考へても居ないやうである。亦考へても善惡を知らないから、それに知らしめるといふ思想であるから國家の爲めに惡いといふことになると、餘まりに負擔が大きく、餘まりに公平でないと思ふ。

社會問題研究者が、新マルサス主義を考えて居る要點は實に其處にあるのである。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

□眞面目なる提唱

英國にフェビアンソサイティーといふ學者の團體がある。此の團體は社會主義者の會合で、社會問題勞働問題等に就いて設立以來長がい年の間研究して居る。ところが、或る時警察署と諒解を得て、產兒制限の方法を書いた小印刷物を、倫敦の貧民窟に撒いたことがある。そして避姙の宣傳を行ふたのであるけれど、之れは人氣取りの煽動や、賣名の爲めに一時の道樂的な考えから惹つたのではなく、尤も眞面目に、如何にして無產階級の生命を樹立しやうかといふ點から惹つたのである。

產兒の制限は有產階級から惹るべき筈はない。有產階級は多くの子供を持ち、之れを完全に敎育して社會に出すことが義務である。けれども貧乏人は產兒の制限をしても差し支へはない。

有產階級は、多くの子供を育てることも、之れ等を敎育することも可能るのであるが、貧乏人にはそれが爲し得ないのであるからである。

□課税原則と避姙

夫れは、恰度國家が租税を課して居る原則と同一であつて、有產者には多く、貧乏人には尠なく課税するといふことは大なる社會政策の眼目である。產兒の制限に於ても矢張り同一で、有產階級は子供を多く持ち、無產階級が少なく持つといふことは當然である。卽ち亓處で負擔の不平等、不公平を調節する爲めに、此の說が出來たことを私共は考へなければならない。卽ち國家の爲めては善惡を決定せられない。

若し租税を國家の爲めに、有產階級よりも貧乏人に多くしたならば良いかといふに、それは甚だ不公平な事になる。亓うしたなら、貧乏人に產兒の制限の行はれることは當然で國家の爲めにといふことは不當である。

□人類眞の幸福

如何に新マルサス主義が唱えられるやうになつても、或る程度まで人口が減るやうにはなるが、子供を育てることが面倒だからと謂ふて、避姙といふことは行はれない。

一家のうちで子供を持つといふことは幸福なことで、子供位幸福なものはないのである。女としても母性の要求として、子供を持つといふことは幸福だ。男女とも子供を持つことの幸福であるといふことには異りはないのであつて、私共にはその慾望はあるのである。その慾望のある間は、產兒制限を適用するといふことはない。

然し餘まりに多くの子供を持つて、之れを育てることも可能ず、厄介視するやうになつては子供の敎育上宜敷くない。亓處で私共は、此の問題は有產階級よりも貧乏人に向つて知らしめなければならない。實際に此れを行ふても人口は減ずるといふことはない。而して私共には人口の殖えるといふことは望ましくない。先づ現在の程度で進むことが、人類の幸福であると信ずる。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

住宅難緩和の策

廓清會理事　高島米峰

□住宅難緩和と墓地

住宅難の結果が、辨慶橋の保存、維持といふことを危ぶまれる程に切迫して來た今日、市の經營者が、貴族や富豪の邸宅に覗を付けて、幾何にてもそれを開放せしめやうと努力して居ることは、甚だ時の宜敷きを得たものと言はなければならない。

獨り貴族、富豪のみの邸宅でなく、東京市全體の上から住宅地を求めるなら、其處にも此處にも幾何かの住宅地を發見するに難くないのである。

その一つとして私は青山の墓地に眼を著けざるを得ない。言ふまでもなく、墓地は祖先の遺骸遺骨の埋められて居るところであつて、或は神聖なる土地と言ふことも可能るのであるから、それを取り片付けて、其處に市民の住宅を新設するといふことは、感情の上から或は不同意を唱ふる人があるかも知れないけれども、然し冷静に、理性に考察する時には活きた人間が棲むべき家を建てる土地を得ることに困難して居る場合、死んだ人が擴大な地面を占領して晏々と眠つて居るといふことは、果して辻褄の合ふことであるか何うか。

祖先を崇拝するといふことは非常な意義があるとして、その祖先を崇拝する者は卽ち子孫ではないか、子孫が生活を脅威されて居て、それでも猶ほ祖先を崇拝しなければならないと強要せられるのは、少なくも不憫なことではないか、憐むべきことではないか。

□祖先の慈愛心

凡そ親として子の行く末えを思はないものゝない如く、祖先もまた子孫の繁榮を希はないといふ理屈はないのである。天照大神の詔にも、豐葦原の瑞穂の國は吾が子孫の王たるべき所と仰せられたのは、卽ち子孫の繁榮を念として給ひし詔であつて、此の慈愛深き大御心に對して、崇拝の念を起さゞるを得ないといふことになるのである。

現下青山原頭に、安らかに眠つて居る我等の祖先も、その子孫が住宅難に壓迫されて、雨露を凌ぐことさへ意に任せない狀態にあるといふことを知つたなら、定めて眠り心地が惡かるべき筈である。而して必ず自分の自由に他に移り得べき力があるなら、潔く進んで他に眠り場所を發見けらるべきであらう。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

此の意義からして、我等は、先づ青山墓地の移轉を主張し之れに由つて、幾何か住宅難の緩和を計りたいと考える。

□理想的納骨所

墓地の移轉の爲めに、更らに青山墓地程の面積がなければならないとするならば、それは亦甚だ無用なことである。

死者一人に幾坪とか、或は一家族に幾坪とかといふ特定された墓地を造るといふことは、現在殊に將來に於いて、甚だ意義を爲さないことでもあるし、土地經濟の立脚地から考えても、甚だ無用なことであると斷言しても差し支へはない。

青山にせよ、谷中にせよ、亦雜司ケ谷にせよ、人及家が特定されたる幾坪かの土地を要求されたる結果、終ひに活きた人間が、死んだ人間の爲めに、住むべき土地を奪はれたといふやうな結果を生じたのであつて、將來人口の增殖の結果は、益々その嘆が多くなる譯けである。

今後の墓地は、多くの面積を有せずして、而して猶且つ子孫をして祖先を崇拜するの志を缺しめない丈けの施設を必要とするのである。夫れは卽ち共同納骨所といふものを適當な場所に建設し、總ての死者の遺骨を一堂に納め、忌日命日に子孫がその納骨堂に參拜して、恭敬供養することが最も理想的なことだと考える。

尤も、納骨所の先決問題としては、神徒、基督教徒の如く遺骸をそのまゝ埋沒するといふやうなことは、廢止しなければならぬ。死人を悉く火葬にして燒くことにし、それも成るべく遺骨や灰燼を多く殘さないやうに、強烈な電氣を以て燒くといふやうな考えが生じて來る。

若し佛教徒基督教徒が、同一の納骨堂に遺骨を安置するといふことが、凡ての點に不便であるなら、佛教徒は佛教徒の納骨堂を有し、基督教徒は基督教徒の納骨堂を有することにしても宜し、亦佛教徒の內でも各宗派が同一で都合が惡いなら、各宗派は各別に納骨堂を有し、基督教徒の各派も各一つ宛を有することになつても、その爲めに要する土地は、現在の墓地の制度に比較して、殆んど問題にならない程の僅少な面積を以て足る譯である。

或は亦、極端なる階級思想に虜はれて居る人々から、大臣大將の骨も、權兵衞田吾作の骨も一堂に、平等無差別に安置せられるといふことを不滿とすると抗議が出るかも知れん。

然し、佛の前には何人も平等であり、神の前には何人も無差別であるのであつて、幵うした差別的偏見に虜はれて居るといふことは、現代思潮の上からは、活きた人間さへ之れを承認せられ難くなつて居ることを想へば、素より以て問題とするには足らないのである。

亦怎うしても、共同納骨所に納骨することを快としないものがあるなら、是等は自分の邸宅の一隅に、納骨の場所を選んでおくといふ自由を國家が與えても良いと考える。

□市民禍福の岐路

斯くの如くにして、市民の爲めに要する土地が、大部分活きた人間の爲めに開放せられることになれば、刻下直ちに當面の急を救ふことも可能るし、將來もまた、今日及過去の如く土地を死人の爲めに費されるといふことが、尠なくなるといふ丈けそれだけ活きた人間に都合が良い譯てある。

先づ東京市は、少なくとも青山墓地を整理して、郊外の然るべき土地を設けて、然るべき共同納骨所を建設し、依つて以つて市民の住宅難を緩和すべきことを努むべきてある。

法律から見た出生

法學博士　穗積重遠

□胎兒の權利能力と出生

日常生活及社會生活を規定するものに民法があつてその第一條には私權の享有は出生に始まるとある。第一に起る問題は出生とは何ぞやと云ふ事であるが又此條文に議論がある。それは裸體一貫て權利を有するとは變だと云ふ點てある。然し持ち得る能力、法律語て言ふならば權利能力を有し得るのてある。人間てある以上は權利を持ち得る、又權利を持ち得るから人間てあると言ふ事が出來る。そして出生兒の人格を認めたのてある。然し昔は此私權の享有が出生に始まらなかつた。そして人格者として取扱はず、權利能力をも認めなかつたが、社會が漸々進步して、人格も權利能力も認むる樣になつたのてある。但し行爲能力はないが權利能力だけあるのてある。

そこて問題は出生は何時てあるか、出生の初めに始まるか、將た終りに始まるかの點てある。又出生には獨力呼吸說がある。それは必ずしも胎兒が母體より離るゝことを要せぬので、學理的に可なり新しい說てある。然しながら法律は事實に一致しなければならぬ。そして其一つの事實を取つて法律上の境界となす事が出來るので、それは決して不合理ではない。吾々は各法律の目的を攻究して之に從はねばならぬ。前にも申す通り一部だけ胎內から出た生兒に對する一部露出說はあるけれども、大體民法なるものは社會生活の原則の一部分を規定したもので、少なくとも母の身體より離れなければならぬ。換言すれば民法は全部露出說に據るのてあつて、出生の終る事に依つて社會の一員となるのてある。

□生產死產畸形兒及双生兒

そこて出生が終つて、全部露出する要件の外に、一分ても一秒ても生命がなければならぬ。佛蘭西の法律ては單に生きて居るだけてなく、生活能力があらねばならぬ事になつてゐる。又西班牙の法律は二十四時間生存する事を要すとある。又玆に夫婦があつて、その夫が死し婦か懷胎したるとき、財產相續の點に重大なる關係がある。又出生の場合に於て實際の狀況が判らぬ事がある。產婆も間に合はず、產婦も產の爲めに苦み逆上したるときに、出生の時出生後死んだか、死產したかを如何に定むるか不明な場合があつて、其の時に相續上の問題も起る。序に申して置くが、獨逸全體の統一せる

民法の出來たのは、西歷千九百年であつて、それ以前は各聯邦に別々の民法其他の法律があつたのである。その普魯西の民法はフレデリツク大王の發案に係り、千七百九十四年に出來たものであるが、出生には初聲を聞いたと云ふ事を證據とする云々と規定してあつた。

今日では开麼なことはないが、昔の普魯西の法律には奇妙な事を規定して居た。モンスター即ち畸形兒の如きものは人と見ぬ。それは宗敎的觀念から來て惡靈が憑いてゐるのであると考へたからであつた。今日では畸形兒だからと言ふて、人格を認めぬと云ふ事は決してない。偖愈々生れたと言ふ事にして、同じ腹から二人三人と生れた場合に、長幼の序を如何に定むべきか、普通の場合は先きに生れた者が兄としてある。双生兒は色々の方面より見るならば面白き事がある。日本書紀の一番初めに双生兒の事が出てゐる。『隱岐の島と佐渡の島を双生兒として生む。世人或は双生兒を生むものあるは之に象るなり」とある。又日本書紀神代章には、双生兒の場合は後に生るゝ者を兄とする。又胞衣の印に由るとあるが、今日の學者は俗説であるとして之を排斥するのである。又支那人の考へでは双生兒には兄弟なしといふ觀念を持つて居る然しながら常識より考ふるも、先きに生れた者が兄であり後に生れた者が弟であるべき筈である。舊約聖書創世記第二十五章二十四節乃至二十六節に「かくて臨月みちて見しに胎には孿ありき。先に出たる者は赤くして體中裘の如し其名をエサウと名けたり。其後に弟出てたるが其手にエサウの踵を持り其名をヤコブとなづけたり。リベカが彼等を生し時イサクは六十歳なりき。」とある。又出生の時間に就て考ふるも、一人の子供が十二月三十一日午後十一時五十五分に產まれ、一人が十分過ぎの午前零時であるときは僅に十分の差違に過ぎぬが、數へ年は一年の相違を生ずるのであるから先きに出生れたものを兄とするのが適當であると思ふ。亦何れが先に產まれたのか解らん場合がある或は產婆がお湯を使ふ時間違えて解らなくなつたやうな場合には普魯西の法律では抽籤で定むるとあつて、一種特別の遣り方になつて居る。

□家督制度と中性兒私生子

我國は長子が家督相續をするのであるから、双生兒は重要の問題となるのである。一體日本の如く兄と弟に對し非常の差別を附すると云ふ事は、重大なる問題である。父が戸主である時は、長子に全部財產を遣る規定になつて居り、非戸主の場合は等分に遣る事になつてゐる。又戸主が死亡の際特に遺言をすれば、半額迄は長子以外の者に遣る事が出來る。私は長男であるが餘り旨過ぎる様に思ふのである。總領の甚六と申すが、此家督制度なども關係してゐると思ふのである。ドクトルサミユル・ジヨンソンは「英國の長子相續制度は誠に結構である。なぜかと云ふならば、一人だけ馬鹿にするからだ」と申して皮肉の言を弄してゐる。要は其方法に就て攻究すべき餘地があるのである。

又男女問題に就ても一考を要すべき事がある。昔は女の地位が低かつたので、民法に於て權利の隔りがある。女なるが故に機會の均等を與へないのは不都合である。婦人が政治家

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

になれないとする事はいけない。又婦人が大學に入學する事が出來ぬと云ふ事は不合理である。猶ほ數へ來るならば、幾多の婦人問題を擧げる事が出來る。

普魯西の規定には、中性兒に就ては『其子の生れた時、父母が男として養育すべきか女として養育すべきかを決定すべし。然し滿十八歲に至らば本人をして撰擇せしむべし。但し利害關係により鑑定を要求する事を得』とある。又我民法に於ては、婚姻に依つて生れたる嫡出子であるか、或は庶子、私生子であるかに就て種々の問題は起るが、兎に角懷胎後婚姻したる時も嫡出子であり、婚姻前に既に懷胎して婚姻後出產した者も嫡出子である。その他の場合に產まれたものは庶子であり、私生子であると見ることは可能る。日本は統計上私生子が多くあつて、風俗紊亂に見ゆるが、それは我國では立派に婚禮の式を擧げて道德上風俗上の私生子でないものが、法律上の手續に依り戶籍吏に屆けなければ、總て私生子となるのである、然し是れは形式に拘泥するものであつて、私生子に數へ込むのは穩當てない。今回の國勢調査に際し、私は委員の一人として働いた譯であるが、我牛込區長さんは、戶籍に拘泥せず事實に基づき眞の夫婦か然らざるか、又嫡出子か私生子かを區別する樣にその御指圖で、私も至極贊意を表して其方針に依つて調査したのである。由來戶籍は紙の制度であるから、之にのみ據るならば事實と全く矛盾するので誠に面白くない。若し本當の夫婦であるならば、其事實に基づき夫婦と認め其子を嫡出子と見て宜しいと思ふ。(內緣の妻の問題に就ては本誌本年六・七號參照)

□胎兒の求償權と相續權

又一步を進めて私生子に就き考ふるならば、種々の沿革や事實や待遇上の差別があるが(記者曰私生子に關しては詳細說明せられたるも同博士の「私生子の待遇法」と題する講演要領は既に本誌第九卷第十二號に揭載しあるに付大部分省略す)或る學校に私生子を選拔試驗の時、其學術品行總て優等なるに拘はらず、之を採用せざる方針を執る事にしてあるが、私は是れは甚だいけない事であると提議するのである。そこて話は變るが、生れない子供卽ち胎兒は權利がない人格者でないとするならば、それでは困る事がある。例へば或る姙婦が車に乘つた所が、その車夫が過つて車を顚倒した爲に、胎內にある胎兒の手が折れたそして、損害賠償の請求をしやうと思ふても、請求す可き主體がないとするならば怎うてあるか。又相續の場合には母が懷胎後父が死亡して、その胎兒が生るゝ迄には二三ケ月の間がある事がある。是等の場合に權利能力も人格も全然認めぬとしたならば、怎うてあらうか。歐洲中世以後の法律は、胎兒は其利益に就ては既に生れたる者と看做すと規定してある。

又日本には夫婦の間に女の子がある時は、假令胎兒があつても、一旦その長女に相續させる。そして其胎兒が生れて若し男子であるならば、相續回復の訴を起す事が出來て既往に遡るのである。要するに今日では、昔よりも懷胎出生を重んじ、段々人格を尊重する樣になつた。言ひ換へれば人

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

格尊重は段々逆に年を取るやうになつた。親子法から見ても子供の地位の上進史である。夫婦間の法律は妻君の地位の上進史である。親權は昔は殆んとの親權であつたが、段々義務といふ事になつて來た。親權を行ふ父母は未成年の子の看護養育を爲すべき權利を有し義務を負ふのである。或法律家は權利は權利であり、義務は義務であつて混同すべからざるものであるといふが、併し私は親子の關係は一方から見れば權利であり、一方から見れば義務である。一般的に私は權利は義務だとする者である。親が子供に對する權利は物品所有の權利と異り自由に拋棄する事の出來ない權利であり、權利を行ふ義務であり、義務を行ふ權利であると見るのである。

□既生兒及胎兒保護の趨勢

今日に於ては今一歩進んで親のみならず、社會も連帶してその義務責任を負はねばならぬ様の傾向になりつゝある。子供の養育は親義務であると共に社會義務である：普魯西の規定には既生兒を養育すべき義務を有する者は、尙ほ母の胎內にある者にも同一の義務を有すとある。生れてゐる人が育たぬならば、社會は之を養育すべき義務を有する。胎兒に就ても社會全體が同一の義務を有すべきであると云ふ思想が、晩近勃興しつゝある事は誠に喜ばしい事柄である。

國際勞働會議には、勞働に從事する姙婦保護法が議題となつて議せられたが、それは獨り勞働者のみならず、一般姙婦の保護法が出來ねばならぬ。然し今日の弊は、總て法律に餘り重きを置き過ぎる事である。之を實行するには準備や設備が入用である。又我國に彼の少年裁判法を行ふと云ふ說があるので、誠に結構の事と思ふ。併し爰に御話したい事は私が獨逸に留學の際ドクトルケーネンと申す名判官の裁判を見るために、少年裁判所に行つたのである。所が博士は私に机の前で書類を調べてゐる一婦人を紹介して『此婦人は少年保護會の幹事で、裁判に於ける中心人物である』と申された、私は此言葉を非常に面白い事であると感じた。民間の少年保護會の幹事たる一婦人が其法廷に於ける中心人物であるといふ紹介を裁判長によつてされるといふ事は甚だ學ぶべき點で、以て如何に少年保護に關して外部の婦人の活動が盛んであるかを知るのである。（文責記者）

哀中の哀事

此の頃目前の誤覺化として、娼妓の公休日といふものが隨所に傳へられるのである。眞に同情慈愛の心から出た涙の結果なら何故百尺竿頭モウ一歩を進めて、一層全部の證文を捲いて仕舞ふべく考へ及ばないのか？公休日が何れ程彼等の休養に値するか、左に記す或新聞の記事は巷間の一茶話と看過することは可能ない。幷處に人生の矛盾と彼等の怨哀と自暴自棄が窺はれる。

＝（略）私服の査公に發見されて大目玉を頂戴して歸樓したが彼れ等の云ふ事が又振つて居る、曰く

先日催された娼妓慰安會に行つたばかりに飛んだ罪作りをした、月に一度の公休日だなんて一寸も有難くない、それも公休日には芝居とか活動とかに行かれるなれば宜しいが、只公休日と云うても門外に出られるてはない、門內で遊ぶ位なら何にも大げさに公休日だなんて無くても可い『難有迷惑だ』と

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

男女問題より觀て人類の生存は競爭か互助か（下）

一條忠衞

三　男女の生存互助

男女の相對性原理　人間に於ける生存の意義は前段に述べた通りであるが、人類の生活に現はれる生存互助の眞義は男女の生活に現はれる生存互助の眞義より歸納されなければならない。惟ふに宇宙間の森羅萬象は悉く相對的なものである。先づ吾々の經驗的認識に基く物理的自然觀に於ては、時間、空間、運動の三者が相對的に存在して居るのである。絕對の時間と云ふものは無く、絕對の空間と云ふものは無く、絕對の運動と云ふものは無い。それ故、吾々の知覺の對象と云ふものは如何なる場合でも、時間と場所（空間と運動）との結合によつて生ずるので、時間を離れて場所が無く、場所を離れて時間が無いのである。人間はその發生に遡つて事實を探求すれば、洵に一個の卵子と一個の精子との結合である。そして此の二つの對象は吾々の經驗的認識に於ては、既に物理的自然觀によつて、時間、空間、運動の相對性を有する實在として知覺されて居る。そして一面に於ては個人を創造する生命の要素的單位として、物理的自然觀の上に更に精神的社會觀によつて人生の意義を有する實在として知覺されて居る。卽ち人間の卵子と精子とは時空と運動との相對性原理に規約されると同時に、人間の生命それ自身の進化發展の形式として、相對性原理に支配されて居るのである。卵子は自己の生存の目的を實現する爲めに、精子に對して獨立し、精子は自己の生存の目的を實現する爲めに、卵子に對して獨立して居る。そして此の二箇の目的は何れも人生の目的に向つて自己を發展する生存の實現であつて、同一性質を帶べるものである。その獨立は絕對の獨立では無くて、人生に於て同一性質を帶べる生存の實現を目的とする相對的獨立である。そこで卵子と精子とは、人生に於ける共同目的の上に生存を實現するものであつて、相對的生存である。單獨に目的を描き、單獨に生存を繼續することの出來ないものであつて、同一の目的の下に共生依存するより外に方法の無いものである。それ故、卵子と精子とは有機的のものであつて、各自に機會均等の生命を有する實在者である。卵子が自己の目的の爲めに精子を手段に供するのでも無く、精子が卵子を自己の目的の爲めに手段に供するのでも無い。人生の唯一共同の目的を實

5—856

現せんが爲めに、相對的の獨立を爲し、互に自己を犧牲に供するのである。即ち共に生き共に存せんが爲めに、互助するのである。その間に生存を競爭して居る事實が無い。これが男女の相對性原理の根本的特質である。

男女兩本位　斯様にして人間は卵子と精子との發生的事實に於て、生存互助して初めて個人となり、男性個人又は女性個人を創造するのであるが、さて此の男性個人と女性個人とは上述の相對性原理により、各自に自己を本位とするものである。併し乍ら、この本位は絶對的の本位では無くて、相對的の本位である。人生に於ける共同の生存を實現する爲めに、兩本位の生活を營んで居る者である。男子は女子に對して自己を本位とし、女子は男子に對して自己を本位とし、相對的に獨立した兩本位の境遇に於て、その協同の生存を實現するのである。男子が自己の人生の目的を實現すること、女子が自己の人生の目的を實現することゝは同一の事實であつて、而も兩本位の機會均等な生活に於てのみ初めて成就されるのである。男子は自己を利すると與に女子を利し、女子は自己を利すると與に男子を利し、利己と利他と調和した人生の共同福利の實現によつて、各自の生存を實現するのである。即ち男子と女子とは生存互助して初めて自己の人格を實現し、各自の可能性を發揮し、人生の目的に到達し得るのである。然るに男子本位又は女子本位はこの事實に逆行するのである。これ等は何れも自己を中心とし、一身の利益を目的として生存しようとする者であつて、男子は女子を自己の手段に考へ、女子は男子を自己の手段に考へ、孰れも自己の方便の爲めに異性を奴隷視する生活である。過去の人類の歴史は實にこれを事實に於て行つて來たのである。その結果として到來したものは男女の爭鬪である。即ち社會的生活に於ける男女の生存競爭である。

男女の連帶的生活　過去の社會的生活は男女の生存競爭によつて、男子が勝利を占めた男子本位の社會であつた。けれども、人智の進歩によつて人格の觀念が次第に發達して來たので、男女の權利義務が明瞭になつて來た。男女は相對性原理に支配されて居る兩本位的存在者であることが自覺されるに至つて、男女の連帶的生存の要求が强大になつて來た。現代の文化に於ける吾々男女は、人格の共同實現によつて各自の生存を互助しなければならない關係者になつた。その最も緊急なるものは政治と經濟とである。先づ政治は人間が自己の人格を實現せんが爲めの法治的生活であるから、女子も人間であつて人格の實現を必要とする以上は、男女平等に而も同權を以て政治に參與しなければならない。この目的を達するには、立憲代議制は男女兩性の合議所に變更されなければならない。男女が一堂に會して隔意なく意見を交換し、自他の福利を交讓して、共同生活の目的に向つて政治に鞅掌し、以て國民の人格の實現を期さなければならない。

次に經濟は人間が自己の人格を實現せんが爲めの物質的生活であるから、女子も人間であり、自己の人格を實現するには、男子と同様に衣食住の物資に對して、均等な機會を與へられなければならない。社會の經濟を男子本位に壟斷することは甚だしく不合理である。女子を男子の家畜として飼養す

Digitized by Google　　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ることは不德である。男女は人生に於ける生存の共同目的を實現して、自己の人格的義務を全うするには、社會の生産機關に對して平等の權利義務を有たなければならない。社會の生産機關は男子のものでも無く、女子のものでも無く、男女の共同財産として、使用增益することによつて、男女の共生依存が行はれるのである。男女は實に經濟的に一大連帶者てあつて、衣食住の相互扶助によつて各自の生存を維持し、その協同の性的意義を發揮するのである。男子のみが衣食住に豐富な生活を營み、教育技藝を修め、女子の榮養不良と無教育とを放任して顧みぬやうては、男女の連帶的生活は破壞され、人生に於ける性の共同生存はその意義を沒却するやうになる。それて先づ男子の勞銀率と女子の勞銀率とは同一て無ければならない。雇主側の利益の爲めに、仕事の效果にのみ價値を置いて、女子を以て男子に及ばぬ體力者又は智力者と考へるのは、不合理極まる獨斷てある。男子と同一の勞働に從事して、同樣に精力を消耗し、同樣に疲勞を與へるものは、同一の仕事として勞銀率を同一に規定すべきものてある。殊に今日の一般的なる女子勞働には、男子の勞働と共通な性質のものが多く、仕事の效果には大差が無いに拘はらず、その勞銀率を異にするのは、傭主側に於ける男子本位の傳統的思想に由來するので、一方に於ては女子が習慣的にこの思想を承認して居る無自覺の結果てある。互に生存を競爭した過去の常習によつて生活して居るが爲めてある。その結果として、女子勞働者は慘酷に虐待された上に、僅かの賃銀を與へられ、榮養不良、不衞生、無教育、疾病その他を寄せ集めた淪落の生活に陷り、生存を脅威されながら露命を保つに過ぎぬ有樣てある。これは全く禽獸の社會に於ける野蠻なる生存競爭の罪てある。今日の人道的觀念から見て、男女の生存互助の精神に反すること最も甚だしく、人生の共同目的に對して性の連帶的破産となり、人格の滅亡に終らざるを得ないものてある。

夫婦扶養の義務　男女の連帶的生存に現はれる相互扶助の原理は前述の說明によつて明になつたが、更にこれを具體的に證明して居る生存互助の單位は、實に夫婦の扶養義務てある。夫婦は互に扶養を爲す義務を負ふことは、道德上の常識てあつて且つ法律の規定するところてある。是れは何故てあるかと云ふに、人生に於ける夫婦の生存は男女の相對的生存の最上形式を有する具體的實任てあり、男女兩本位の典型てあり、男女の連帶的生存を代表したものてあるから、これを維持してその生命を發展させ人格を實現するには、是非とも經濟的資料に關して互に扶養の義務を負はなければならぬからてある。夫だけが生存して妻を淘汰し、妻のみが生存して夫を淘汰するやうては、男女の相對性原理に反し、性的生活の意義を失ひ、種族の保存は不可能に歸するからてある。殊に夫婦と云ふものは、一男一女の性的生活を理想化した至誠的和合によつて成立した人格的戀愛の結婚者てあるから、その人生に於ける各自の共同目的を實現するに必要なる經濟的生活に對しては、共同的のものてあつて主從の關係が無く、兩本位的に同一の目的の下に婚姻より生ずる一切の經濟的費用を相互て自辨し、相互て扶助しなければならぬ關係者てあ

る。夫が妻を養ふのでも無く、妻が夫を養ふのでも無く、自ら自己を養ひながら互に互を養ふ自他一體の有機的な經濟的生活者である。それで財産上から考へれば、妻が夫の財産によつて生活しても善し、夫が妻の財産によつて生活しても善し、又は夫婦各自に財産を所有して生活しても善い。又た職業や收入の上から考へれば、妻が夫の職業よりの收入によつて生活しても善し、また夫が妻の職業よりの收入によつて生活しても善し、或は夫婦は各自に職業を有つて居て共稼によつて生活しても善い。それで經濟に關する夫婦間の生活費用は扶養義務の形式に於て夫婦の協同生活を完成する爲めの消費であるから、其の共同生活に必要なだけの費用を得ることに關しては、夫婦は倶に勞働者となり、生産者となつて其れを負擔すべき義務者であり、一方にのみ此の重荷を負はせることを以て唯一の原則と心得べきては無い。持に夫婦の一方が病氣とか、失職とか、貧困とか云ふ特殊事情により、家庭の維持が困難な場合には、その一方は勞働者となり生産者となつて扶養の義務を果さなければならない。是れは無産階級の家庭に於て最も明に證明されて居る事實である。夫が病氣で勞働に從ふことが出來ぬ場合に、妻は子供を擁しながら內職を爲したり、賃銀の低い職業に從事したり、或に醜業まで營んで露命を繫ぐのである。この場合に妻も病魔に捉はれて病床に呻吟することになれば、親子諸共に生命の脅威に過はなければならない。然るにこの場合に夫婦の一方は我が身獨り、この地獄の苦痛から遁れて生き延びやうとは欲しないので、いつそ死ぬことならば夫婦親子諸共に命を絶つて極樂往生すべしと斷るのである。これは取りも直さず、人生に於ける夫婦の生存なるものが相對的のものであり、兩本位的のものであり、連帶的のものであり、有機的のものであり、利己と利他とを合一した人格的のものであり、相互の扶養義務によつて永遠無窮にその生存を互助して、偕老同穴しようとする人格的和合に於ける生命の熱愛である。夫婦間にこの生命の熱愛があつて初めて夫婦の生存が互助され、隨つて種族の生存が維持され、人類の文化が永久に存續するのである。

四　人類の生存互助

以上の概説と結論　上來の如く、人間には生命と云ふものがあり、其の生命の發展として男女の性と云ふものがあり、男性個人と女性個人との結合によつて生命の創造が行はれ、そこに人類を生じ、男女と人類とは有機的に同心一體の關係を保つて居るものであつた。そして此の生命の內容は何であるかと云ふに、それは生存と云ふものであつて、人間に於ける人格の屬性としての權利義務によつて社會連帶性のものとなつて居るので、競爭的のものでは無くて互助的のものであつた。そして此の生存は男女の相對性原理により、男女兩本位のものとなり、男女連帶のものとなり、夫婦の扶養義務によつて實現されるものであつた。そこで吾々は人類の生存と云ふことに就いて考察して見るに、人類は生存を競爭すべきものでは無くて、これを大に互助すべきものであることが立證されるのである。生存競爭は人類の眞相では無くて、却つ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

て生存互助が眞相であることが歸納されるのである。

人類に於ける生存互助の使命　そこで吾々はこゝに大なる使命を帶ぶのである。實にこの生存互助は人類の最大使命であることに想到せざるを得ないのである。先づ吾々は人間の生命を創造する男女の性的世界觀に基いて、生存互助を爲さなければならぬ使命者である。卽ち一家にあつては夫婦の連帶的生活をして、社會生活の性的單位として確立しなければならぬ者である。男女兩本位に、男女機會均等に、各自の權利義務を公正に實現しなければならぬ責任を負うて居る。利己と利他とを調和して男女の共同生活をして完全なる結晶體と爲し、人格的戀愛の聖殿としなければならない。その目的からして、人類は自ら男女の衆合によつて組織され、男女の性によつて創造される個人の團體である。個人あつて初めて人類のあるやうに、男女があつて初めて人類があるのである。個人と男女と人類とは有機的な關係者であつて、その一を偏重してその他を閑却することの出來ぬ性質がある。共通の利害を有し、共同の幸福を有して居る。この意味に於て、男女の生存と人類の生存とは同一のものであつて、共生依存のものである。男女の生存互助と人類の生存互助とは同心一體のものである。男女の生存は人類の生存互助の間に行はれ、人類の生存互助は男女の生存互助の間に行はれるのである。これ故、人類は生存競爭を以て生活の原則と爲すべきものでは無くて、生存互助を以て生活の原則と爲すべきものである。卽ち人類はその人種の如何を問はず、その社會の如何を問はず、人間の生存に對して人格の屬性としての權利義務を平等に保守し、正義、公正、仁愛の行爲によつて各自の天賦として有する人格の諸能力を自由に發揮する機會を均等に與へなければならない。人格の肉體的生活に於ても、人格の精神的生活に於ても、人格の社會的生活に於ても、その利益と幸福とを平等に分たなければならない。太陽の一切世界を遍照するがやうに、雨露の萬物を潤澤するがやうに、何等の偏頗なく、何等の差等なく、公平無私の極致に達しなければならない。

人類に於ける利己の罪惡　この意味に於て利己は不合理の行爲である。自己一身の福利を目的として他人の福利を壟斷する行爲は、人生に於ける最大の惡事である。私利私慾によつて自己の生存のみを目的として、他人の生存を脅威し、自己の生命のみを發展させて、他人の生命の喪亡を喜ぶ行爲は實に憎むべき悖德の行爲である。食ふに食物がなく、着るに着物がなく、住むに家のない人民の群衆中に居つて、我れ一人飽食暖衣して大厦高樓に住み、奢侈贅澤の生活を極めることは、不德甚だしい賤丈夫であつて、惡人の筆頭第一位に置くべき者である。人民を見ること雞豚の如く、これを驅ること牛馬の如く、己れ一人官高く位高く、天下を睥睨して專橫不遜なる貴族は、是れ亦た賤丈夫の一人である。彼等は人間の神聖なる生存に於ける人格的權利義務の實現に際して、萬人の行爲を律する規範として揭げられたる無上命令に反して正義人道を蹂躙し、私利私慾を以て生存の原則と心得る人面獸心の惡魔である。これは産業の上にも又は國際の上にも同樣であつて、貧富又は弱國强國の生存競爭の生活に於て、

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

弱者の福利を壟斷して强者の福利をのみ念ずることは罪惡である。この意味に於て放漫なる自由競爭と戰爭とは、總ての點に於て唾棄すべきものであり、凡ゆる點に於て排斥すべきものである。人類は平和の間に生存互助しなければならない。仁愛と平等との間に個人の自由を尊重し、正義と公正との下に之れを躬行しなければならない。これが爲めには、各人は正心誠意を以て修身の原則としなければならない。親子の愛のやうに、夫婦の愛のやうに、欺くことの出來ぬ眞心を以つて生活しなければならない。人類はこの眞心によつて生存互助して、初めて個人の人格をその社會の中に實現し得るのである。人を憎み、人を欺き、人を咀ひ、人を虐げ、人を滅ぼす行爲は無道奪倫の行爲である。人を愛し、人を導き、人を助け、人を生かす行爲は至上最善の行爲である。人生はこの至善の行爲を互に實踐して、互にその人格を相啓發することによつて、この究竟の目的を達し得らるゝのである。生存互助は實に人生の人道的生活であつて、人類の進化を全うする唯一最高の原理である。富貴を獨占し、權力を私擅し、この世を我が世と弄ぶ小人に對しては、斷々乎として一大鐵槌を加へなければならない。是れは男女の性より觀たる人類の生存互助の精神である。（終）

明治神宮鎭座祭に
警視廳へ
建白書

今般明治神宮鎭座祭御執行に就ては曠古の盛事として衷心より祝賀に堪えざる所なるは申す迄もなきことに有之全國より多數の參拜者も上京致すべく從つて當日は雜踏を極め種々の事故も相生じ申すべく貴廳に於ては細心なる御取締有之候ことゝ存じ候就ては市內各町にては神輿を擔廻りて祝意を表する計畫有之候が神輿擔ぎは悉く血氣の靑年にして醉餘の歡興に乘じて動もすれば亂暴を働き喧嘩を爲し行人を脅かし神輿と神輿と相衝突し流血の不祥を見ること從來其例に乏しからず候然るに今般の祝典は斷じて斯かる種類の行爲を許さるべき場合にあらずと被存候につき神輿を擔ぐ者並に之に隨從する者等を戒飭し一切飮酒を嚴禁して奉祝の誠意を表するやう示達相成候ことを得ば一は以て叡慮に適ひ大祭の本旨に合し一つは以て交通の事項を防止し萬民を安んぜしむるに足るべきかと愚考仕り候につき何分御賢慮仰度此段及請願候也

大正九年十月二十八日

廓清會長　島田三郎
婦人矯風會長　矢島揖子
國民禁酒同盟會長　青木庄藏
大日本禁酒同盟會長　安藤太郎
救世軍日本書記官長　山室軍平

●●●記者曰、以上は同志相謀り總監　岡喜七郎氏宛に送られたるものなり

禁酒の偉力

ドクトルプール

□＝食糧及び勞力を無益に消費する酒と
禁酒問題に對する米國百年間の苦心＝□

戰爭は吾々に大なる教訓を與へた其最大なる點は二つて、その一つは戰爭の結果總て材料を始末する觀念を與へた事であつて、人間も同じ事である。酒を飲んて酒の爲めに費す第一の非難は、酒は食糧を無駄にする。又酒を造る爲めに勞力を浪費するとの點てある。何れの國も食糧品の缺乏の爲めに弱つたのてある。また勞力を倹約する者は優勝の地位に立つのてあるから、酒の是等の問題に對する損害が第一に數へらるゝのてある。そこて戰爭以後は酒の問題に注意する様になつた事は、戰前に比して著しき相違てある。佛、白、英、墨南米等の諸國は、未だ禁酒するに至らざるも、米國の禁酒を熱心に見て居り、其成績に依つて、之に從はんとするのてある。這般の大戰爭に於て六百萬の血氣の壯丁が討死し、二千萬の勇壯なる軍人が負傷したので、此多數の者が役に立たなくなつた。それ故に殘りたる人々は、若い人達の體力を盛んにして能率を進める事を痛切に思うてゐるのてある。さうてあるから若し之を減ずるものがあるならば、如何なる困難があつても之を取除く事に奮勵努力するのてある。活動力を盛んにするためには、如何に損することあるも構ふ譯に行かぬ。そして國家の運命進展の爲めに思ひ切つた事をすると云ふ精神がほの見えたのてある。

又經濟上の問題が總て根柢をなしてゐるから、國力の增進を圖らねばならぬ。英國の國產物を製造する者が八百萬人、米國が二千萬人てある。是れだけの人が朝より夕暮迄の仕事をする内に、誰れが最も善き優れたる働きをなすかと言ふならば、アルコールのある人間となき人間と、生產物を生產する上に於て、非常の差違ある事は活ける事實が明かに證明する所てあつて、一國の國力を增進する意味に於て國家として禁酒すべきが當然てある。亞米利加の禁酒に就き此度の戰爭て突飛に斷行した如くに言ふ論者は、未だその眞相を知らぬのてある。米國は實に百年間の苦心に依つて、國禁にするに至つたのてある。又多分御國でもさうてあらうが、米國では近頃殊にデモクラシー即ち民主主義が大流行てあるが、民主主義の眞相を知る者は誠に少ない。リンコルンは「民主主義は人民に依りて立つ所のものであつて、人民が人民の爲めに人民を目的とする政治てある」と申されたが、此人民又は民衆に依れる政治に就き、人民各自の政治の考へは如何にして知

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

る事が出來るかと云ふならば、一般國民に其考を表白する機會を與へて投票權を有せしめ、賛成反對の意見を徵し、それに依つて定めるより外ないのである。

米國が憲法上の禁酒國となる迄
現下蘇格蘭の禁酒運動者の熱誠

所が亞米利加は御承知の通り四十八州になつて居るので、酒を用ゆるか用ゐざるかを一般國民に問ふたのである。一億二千萬近くある滿二十歳の男子は、誰れ彼れを問はず投票した處が、四十五州は酒はいらないから憲法て禁じやうとの說であり、殘りの三州は時機尙早論を唱へたが、兎に角亞米利加は個人々々の意見に依つて之を定め、憲法に依れる禁酒國となつたのである。そこで亞米利加は斯くの如く禁酒は斷行したのであるから、歐洲諸國に於ても勿論之を斷行しなければならぬと私は信ずる。惡しきものを止めるに何の躊躇を要するか、酒が人體を害し家庭を亂し、婦女子を苛めるものであるならば、禁酒を斷行せねばならぬ。私は此酒が罪惡の原因となるのみならず、疾病貧乏其他の大源泉となる事を確認するが故に、吾々が禁酒する事を吾々の責任と信ずるのである。私は非常なる興味を以て我が英國の形勢を見てゐるのである。

今月（十月）は蘇格蘭に酒の問題を爭ふ事になつてゐる。即ち蘇格蘭の名產たるホイスキー酒の製造販賣を止めるか、何うかとの問題があるのである。十三縣が一般投票を以て定めるので、重大な問題である。有志の士は此戰爭の爲めに奮勵して居る。酒は言ふ迄もなく己れ自身の解決すべき問題てある。私は今彼處に戰ひつゝある戰士が、見事大勝せん事を心から希望する者である。蘇格蘭は千三百の選擧區の內三百だけは禁酒を標榜して居る。多くの人々は禁酒問題は個人の自由を妨ぐべからず、禁酒斷行は吾々を壓制するものであると主張するのであるが、是れは誤れる考へてある。元來蘇格蘭は投票に依つて總ての事を定むるのである。そして土地所有者が此酒の問題に就て將來の關係を考慮し、深厚なる注意を拂つて居る。故に多數の人々が漸次能く酒の弊害を知り、禁酒を斷行せば、此法律上の禁酒問題も成功し得るのである。私は彼等の熱心なる活動を一種の嚴肅なる社會奉仕として、興味を以て見てゐるのである。

禁酒斷行の及ぼす會社鐵道の能率
子供の爲めの最も偉大なる標語

更に第二の他の方面を話すならば、戰爭中に一番注意したのは船舶てある。軍隊や食糧等を輸送するにも、船の力を借らねばならぬ。造船會社の內どの會社が最も能く造船率を擧げたかと云ふならば、禁酒を斷行したる米國の造船會社の能率が、他の造船會社の能率の二倍と言ふ好成績を顯はしたのである。飮酒者を使用する會社では、どんな奬勵をしても此米國造船會社の半分さへ出來ない。そして結局造船の能率を擧げた聯合國の勝利に歸した。御國も同じく此勝利の月桂冠を得られたのである。米國の如きも禁酒の州が最も戰勝に對し著大なる貢獻をなしたのである。又亞米利加に於ての非常の强味は、私立の有力なる鐵道會社が禁酒を斷行した一事てある。特別急行臨時急行に從事する者は勿論、一般の視察

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

員、從業員は飲酒者を採用せぬので、誠に善き記錄を作り飲酒の癖ある者は皆罷める事にした。故にどの位禁酒の爲めに輸送の力を增進し、又輸送に熱誠なる精神氣分を養ふたか圖り知る可からざるものがあつたのである。

何處の國に於ても一國の富源は何であるか、石炭、鑛山、造船所、米麥、生絲の如き皆大事のものであるけれども、一番大事なる富源は子供である。米國の學校行きの子供二千二百萬人の父が、一杯のビールは其氣持を能くするけれども、その子供等の事を考ふるときに、酒のある國が善きか、無い國が善きかを熟慮して、酒を止めやうと決心したのである。又彼等は眞面目なる遠大の責任觀念を有してゐるのである。又私は米國がどんな工合に禁酒を實行するに立ち至つたか、其方法を考へて見たい。なぜならば若し他の諸國が其通りにやるならば、何處にやつても成功し、斷行する事が出來ると確信するからである。七年前米國では偉い標語を作つた。そして教會の人々や學校の總ての學生兒童に宣傳する事を努めたそれは「來る千九百二十年に於て我亞米利加を全く酒の穢れの染みの付かない國としやう。酒の穢れより清められたる神聖の國としやう」との標語である。

□━國旗の上に表はれたる禁酒と愛━□
□━國禁酒に至るまでの四段の順序━□

爰て私共の考ふべき事は、禁酒と愛國の二つを結び付けて見る一事である。此亞米利加に於て如何に禁酒と愛國に就て獎勵し鼓吹して居るかと言ふ事は、是れより陳ぶる事實に依つて證明せらるゝのである。即ち二千二百萬人の小學校の兒童に、授業前に國旗に敬意を表せしめ、愛國の教育を施すのてある。そして酒の害を教科書に教へねばならぬ事になつて居る。學校の先生は兒童に對し丁寧に、酒の染みの着いてゐる國は國旗が清淨でない我亞米利加の國旗はまだ／＼染みが着いてゐると教へたのである。所が兒童中の一人の可愛娘が家に歸つて母に我亞米利加の國旗に染みが着いて居ると、先生から聞いた事を話したので、母は其意味が能く解らぬので先生に聞き返さしめた所が、先生は諄々として酒の店があつて賣らるゝ間は、國旗に染みが着いてゐるのであるから、禁酒を斷行しなければならぬと言ふ事を說明したのである。其子供が歸つて母に話すと、母も大に感奮して投票の際禁酒に投票したと云ふ美談がある。

酒を廢めなければ本當の國とする事の出來ぬことは當然である。そこで米國に於ける禁酒の順序が四段ある。第一酒の害を教育する。第二酒の害の問題に就て人々の心が苛立て、又煽て上げて人々の心を革新する。第三法律で決める。第四廢酒を斷行する。此四つの順序を經なければならぬ。第一の問題は何故に教育しなければならぬか、眞理を教へ人道を識らしむる事が必要であるからである。若し之を識る事が恐ろしいと言ふ人は、眞理人道を實行する勇氣なき臆病者である軍人ても同様てある。聖書の所謂「眞理は爾曹に自由を與ふべし」てあつて、吾等眞理を求め人道を履み行ふ事を喜ぶ男子及婦人は偉いのてある。若し日本に於て是れから先き四十年の内に、國民の精神及身體を善くしやうとするならば、今の内に子供を如何に教育すべきかを考へなければならぬ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

米國小學校の教科書が教ふる酒害酒の廣告を掲載したる新聞雜誌の取締

米國は四十年前に教科書に酒の害を教へた。即ち酒は人體の榮養物にあらず、却つて身體の組織を害するものである。興奮劑にあらず、麻睡劑である。又酒やビールは若々しき元氣を消耗し、顏の赤色を青白色に變ずるのであると言ふ事を教へ込んて來た。生徒は之を知らなければ卒業が出來ないと云ふ譯てあるから、大體の考へがその老父母とは餘程違ふのである。私は謹んて諸君に御勸めする。此麗はしき日本國を一層麗はしくせんとするならば、學校の教育方法を監督する必要がある。亞米利加ては更に麗はしき事があつた。今より八年前政府の定めたる郵便法ては、酒の廣告を掲載したる新聞雜誌其他の刊行物及一切の書いた物を、郵便に托する事は禁ぜられて、若し犯すときは郵便法の違反になるのてある。

又米國の信用ある大新聞が酒の廣告を斷わつたのてある。其結果新聞は大邊の損て實に何千圓何萬圓と云ふ損てあるがその社長が私に話すのに、それは償ひが出來た。購讀者が非常に殖えたので、決して損にならぬとの事てある。次に活動寫眞がどれだけ酒の害を教へたか、酒に醉へる主人が家内や子供を打擲したり其他亂暴の有樣を撮影して教へたのてある。

戰爭前は米國は酒の爲めに費したる額は四十五億萬圓てある。是れだけのものを無用否有害のために費したのてある。

我英國は先にも申す通り未だ禁酒にならぬが、若し米國に倣ふならば國債八百五十億萬圓の利子を禁酒の爲めに、その酒代に依つて拂ふ事が出來るのてある。吾等は國債の外に酒債を負ふと云ふ事は、非常の重荷であり且つ最も忌むべき重荷てある事を認むるのてある。

酒税の收入と酒毒の損害の對照と人員及賃金より見たる造酒勞働者

私は此處て感情的の事を云ふのてなく、實際的の事を陳べたい。然るに反對論者があつて酒税に對する巨額を誰れが拂ふかと威嚇する。又造酒及その販賣に從事する人々を如何にするかと攻擊する。處が米國ては何うてあるかを言ふ前に、個人の事を考へて見たい。なぜならば國家も個人の家庭も道理に於て一致して居るからてある。即ち家計貸借の對照をしなければならぬ。米國ては酒税十億萬圓收入てあるが、其替りに酒の爲めに失ふものが夥多ある。即ち犯罪者の半數は酒の爲めてあり、貧乏人の七割五分は少なくとも酒の爲めてある。又米國に於ける淫賣婦の費用の大部分は酒のためてある。飮酒の結果孤兒、氣狂、病身者となる者等總計締め上げて損する金額は、驚く勿れ七十五億萬圓てある。個人として斯くの如き家計をやつて居る者があるならば、誠に愚劣極まる家庭てあると言はねばならぬ。日本の經濟は如何なる計數を顯はすか、必ずや思ひ半ばに過ぐるものがあるてあらう。

第二は造酒に從事する勞働者が、酒を造る事を全然廢めるならば困るとの事てあるが、私が米國の中央政府の統計局へ行つて調べた所に由ると、酒のために投資せられたる百萬弗に對し、賃金を得る者四十人てある。然るに若し造酒業の替りに靴の製造所となるならば、賃金を得る者四百人てあり、紡績會社てあるなら鐵工所となるならば三百二十人てあり、

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ば三百二十五人と云ふ樣な譯であつて、是等十四大事業を平均するならば、百萬弗の資本に對し二百九十五人の人が勞働しつゝ暮して居る計算になるのである。又是等の事業に從事する者の賃金は、造酒に從事する勞働者の賃金の二倍である約言すれば造酒に從事する勞働者を他の業へ廻はすならば、賃金は二倍、人數五倍となるので、決して心配するに及ばぬ事が判明する。

以上第一の敎育に關する事を主もに述べたが、第二の點を陳ぶるならば、暴力を用ゆる譯ではないが、酒の害を識つた以上は、そこに權利と責任が生ずる。卽ち此酒を問題にするのである。諸君の代表者たる議員も禁酒家を選擧する。又議會に禁酒問題が提出せられたる時は、千本位の電報を打つて各議員に對し、禁酒の精神を鼓舞奬勵する事を努めねばならぬ。そして若し其選出議員にして、禁酒の實行に努力せぬならば、次期には選擧せぬと言ふが如き正當の行動を執るべき問題とするのであり、猶ほ其問題を目の前に知らする事である、第三法律的行動に訴ふる事であつて、實際の法律の明文に載せるのである。法律を先きとし楯に取る事は間違ひである。先きに下地のある敎育に依り、次に宣傳に依り、然る後法律の問題となるのである。

私が最後に申したき事は、米國の禁酒は腹が据つた。又良心が目醒めたので、その斷行が出來たと言ふ一事である。之と同じく敬愛する日本國民の腹が据る事と、そして良心の目醒むる事に依つて、禁酒問題が定まるのであり、その次に法律の問題に移るのである。願はくば敬愛する諸君が此重大なる問題に對し、諸君のため、諸君の子孫のため、又日本帝國全體の爲めに深く熟慮せられ、百年の大計を建てられん事を熱心に希望するのである。（一〇、一六、文責記者）

黎明と闇黑面

■歐洲戰爭に依つて婦人の力が認められて以來、各國ともに婦人解放運動は燎原の火の如く熾烈に、而かも益々白熱化して着々その成功を遂げつゝある而して最近に於ける私共の見聞の新事實は、その一つ一つが我我の心を焦燥せしめないものはないそれは我が國ては長鞭馬腹に達しないのてあるか、恁うも何時も先進國とは言ひ狀、總ての運動が外國に先鞭を着けられるのを觀ては駄馬の歩みの餘りに鈍ろきを喞たざるを得ない。

■英吉利てはローンダ子爵夫人は英國島帝に請願書を捧呈して同夫人が上院に於ける議席を要求するの權利あることを主張し、該請願は多分上院資格審査委員會に附議せられるてあらうと最近の外電は傳へて居る。米國て婦人參政權問題が決せられて間のない時に更らに我々は此の新しい報道を得たのてある。

■婦人領事が露國から獨立したアルメニア共和國に出來た。名はダイアナアガベツクアプカといふ婦人て同國大統領オハンジニアン博士の信任狀を捧呈して婦人解放には極めて遲れて居る我國に、その門戶の橫濱に駐劄したとは、皮肉と謂はふか何んと言つて良いか、女領事の任命といふことが、世界て始めてのことてある丈けに彼我の對照が餘まりに差がありすぎ皮肉過ぎてて私共は自失する以外の何物をも持たない。

■我が國ても此の頃ては上流婦人も尠こしは醒めかけて來たやうてあるから、將來は期待するに足るてあらうが、まだそれとて殆んど言ふほどのものてもなく政治家の眠つて居る程度に至つては全然問題てない。參政權も遙かの彼方に隱顯する位のものて、何時解決されるか前途は甚だ遼遠だ、のみならずまだ日本には多くの奴隷があるてはないか！　咄!!

（KA生）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

社會問題としての生活問題

法學博士　吉野作造

□貧乏問題の變遷

現在の世の中で一番大切な、そして最も痛切な問題は如何にして食ふ可きかといふ問題である。言葉を換へて謂へば如何にして貧困の生活から遁れて、人間としての有意義な生活を送る事が出來るてあらうかといふことてある。煎じ詰めれば貧乏問題の解決奈何てある。故に此の意味からして、何故に吾々は今日斯様に貧困の境遇に在るてあらうかといふ事から考へ起し、其の源に立返つて熟く原因の存する處を究めなければならない。

貧乏問題！それは極めて悲慘な言葉てある。或る一部の有産階級たる所謂現在の資本家側の眼から觀れば、餘りに低級な馬鹿氣た問題てあるかも知れぬ。けれども實際に於ては資本家側が考へるやうな、そして觀るやうな馬鹿氣た問題ではなくて、現在の社會の殆と全部は此の問題の爲めに苦痛を倍加せられて居るのである。決して單なる物好や雷同的な氣分から斯様な問題が起つて居るのではない。貧乏は昔しからあつた。けれども昔は然程大な問題として取扱はれては居なかつた。それは何故かといふに、昔は貧乏の定義を『稼がぬからだ』ときめて居た。『稼ぐに追付く貧乏なし』といふ諺は貧乏退治の金科玉條てあつた。要するに昔は貧乏を本人の懶惰にあるとして居つた。然るに實際現代に於ては稼ぐ丈ではどうしても貧困な生活から遁れる事が出來なくなつて來た。社會が進歩するに從ひ益々複雜となり、優勝劣敗、生存競爭激烈にして、迚も稼ぐ丈では貧乏問題は解決されなくなつた。同時に貧乏問題は單なる一個人の問題として捨置く譯には行かなくなつて來た。貧乏は何人も之れを嫌厭する處てある。その上に食ふ事に不足勝になると嫌厭から怨嗟となり自暴自棄の心を起さしむる。其處から危險思想といふやうなものが胚胎してくるさうなるとこれは最早一個の道德問題として打捨て置く譯には行かない。そこて東西古今の爲政家は此の問題の爲めに隨分苦むだ譯てある。

□今昔に於ける生活問題の差異

貧困から生ずる危險思想を豫防す可く爲政家は非常なる努力と盡粹とを惜しまなかつた。例へば我日本でも其昔ある者の如きは十年目毎に、各々所有の土地を返還させて、それを各人平等に分配するといふやうな方法手段を採つたものもあつた。が、何時かは優勝劣敗の勢ひて遂に貧乏人が生ずるに至るので、何うしても理想的に行かなくて廢したといふ事もある。げに爲政家は頭を惱ました。けれども誤解してはならぬ。彼等が貧乏を排除して、世の中から貧乏といふ言葉を無くしやうとしたのは決して貧乏人自身の爲めの幸福問題としててはなくて、政治

に及ぼす惡影響を危惧したが爲に外ならなかつた。が、何れにもせよ、貧乏問題は其時代にあつては、未だ社會問題として取扱はれては居なかつた。それは昔は社會組織が極めて單純であつたから、人間の生活といふ事も、亦頗る單純であつて、兎に角眞面目に働いて而して心掛さへ良かつたなら、左程食ふに困る迄の痛切な問題は起らなかつたからである。それには『稼ぐに追付く貧乏なし』との箴言も一つの原因になつてるに相違ない。要するに今日の如く社會問題としては重大視されては居なかつた。然るに、さきにも言ふやうに近代の貧乏問題は『稼ぐに追付く貧乏なし』の金科玉條にのみ依つて居ては、到底解決が出來なくなつて來た。社會が餘りに複雜になり、そして資本家側の勢力が非常に强力なものになつて、それに引換へ對抗する勞働階級者が益々微弱になつて來たが爲めに、今日の貧乏問題は唯だ稼いだ丈では到底それを排除する事は能ない。其處に此の問題を大くしたる原因があるので、私共は此問題を一種の反抗的運動のやうに嘲笑する所謂資本家側の態度を指して、無自覺なりと稱するのも即ち此の所以なのである

□勞働問題と工場監理

現今勞働問題が盛んに論ぜられて、或工場ではストライキを實行し、又或會社ではサボタージを敢行したといふ事實は我々の既に知れる處であるが、これも其原因は生活問題から出發して居る事は今更謂ふまでもない。併し或る一面には只だ食ふに困るといふこと丈でなしに資本家側が餘りに巨利を貪つて、其處に働く勞働者が極めて僅少な賃銀に依つて左右せられて居るといふ事に就て覺醒した一種の現象でもある。工場や會社の生産が勞働者の手に依つて製作され、そしてそれが賣捌かれるものであるにも拘はらず、勞働者は殆ど眼中にないといふやうな態度で、常に資本家が頤使して省みなかつたといふ事が面白くなくて、其處に惡感情が胚胎してサボタージとなり、ストライキとなつたのである。最近工場監理といふ言葉が出來て、現にそれを實施して居る處もある。即ち勞働者が自ら其の事業の經營に對するといふやうな方法と手段とが新に生れた。甚だ欣ぶべき事である。此の工場監理といふものが十分に實施されるに曉には、生産能率も從來よりは一層增加して來て、相互に利益を多くする譯で、其上に勞働者自身も有意義な生活を送り得る事になつて、相互の感情が漸次融合されて行くに相違ないと思ふ。

□利益分配の不平等

とにかく、世界現今の狀態では、如何に眞面目に有らん限りの能率を出して働いても、その慾望を滿足させて呉れる丈の富は與へて呉れない。昔の人が謂つた『人間は働きさへすれば必ず食へる』といふ事から考へれば、誠に理に合はないことであつて、何う考へても是れには一つの大なる原因が其處になくてはならない。其原因とは何か。即ち『富の分配の不公平』そこからして出立してゐるのではあるまいか。資本と勞働の二要素に依つて其の大部分の利益を收めつゝある一つの會社が、株主に對しては幾十割といふが如き途方もない配當を爲し、又經營者に對しては種々の名稱の下に莫大なる支給を爲すにも拘はらず、其處に働く勞

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

働者は殆と糊口さへも十分ならざる賃銀しか得られないといふ事は、確に資本家側の横暴と云はうか、乃至は所謂昔日の奴隷眼を以つて一般勞働者を取扱つて居るが爲めと云はうか、左に右く恐る可き矛盾である。

現今に於ける貧乏問題は斯くの如くして、個人の無自覺乃至は懶惰より起り來れる現象ではなくて、社會組織其ものに一つの缺陷がある。故に貧乏問題を解決するに、先づ此の根柢にまで衝き入つて社會の組織を或る程度に革めなければならない。その組織改革の一方法として前述の工場監理の如きは極めて當を得た策であらうと思ふ。

□勞働は神聖なり

事大思想は富の高低に凡ての標準を置く事になつたが爲めに、無學無智なる勞働者如きが工場經營の一半を擔任して、それを監理するやうな事は到底出來る業ではないといふものがある。

若し勞働者なるが爲めに、或は貧乏人なるが爲めに何事を爲すの資力がないといふ事であれば、豆腐屋の伜が總理大臣になつたり、桶屋の子息が大臣になつたり、或は傘屋の伜が大臣になつたりするやうな事は出來得ない筈である。然るにそれが、事實に出來て居る處を見れば、強ち貧乏人だからと云つて何事も爲し得ない階級者であるとは斷定は出來ない。卽ち、何人でも相當の才能さへあれば何事も遂行し得る。賢不賢は決して獨り富の豐富なるとならざるとに因るものではない。さて、現代に於ける貧乏問題の解決は昔のそれの如く、食ふ事さへ出來ればこれで解決が出來たといふものではない。單に生存するのみならず、更に進んで、『如何にして我々は有意義なる人生を送ることが出來るか。』これが解決されねば眞の解決とならない。

『恒産なければ恒心なし』といふ諺は支那の政治家が云つた言葉である。恒産がなければ人間は何うしても浮調子であつて、責任觀念が乏いといふ事を稱したものであるが、實際恒産は必要なものに相違ない。昔勤儉貯蓄主義を皷吹した彼の二宮尊德翁の如きは、貧乏は稼いで取つた丈けの金を皆消費して了ふからであつて、幾分づゝでも、稼高の中から貯蓄して置くといふ習慣を付ければ、此の世の中から貧乏人はなくなると考へたのであつた。それ故人間は先づ第一に働かなければならない。さうして其の働いた金は皆消費するやうな事でなしに、出來得る丈け儉約して、其内幾分でも貯蓄しなければならぬといふ事を盛んに說いた。翁自らもそれを實行したのである。其の時代に於ける考へとしては見上げた見識で人間は是非とも働かなければならぬ、卽ち今頃いふ『勞働は神聖なり』である。露西亞のレーニン政府の憲法の第一條に『働かずして食ふ事を要求する事を得ず』と制定したのも、實は遊民より生ずる社會の惡弊を防止せんとする方法なのである。

更に亦人間は働く許りではならない。又如何に多くの賃銀を得ても、自己の本能の儘に放縦な生活を爲すのみでは、それは動物生活であつて、人間生活としては無意義でもある。故に各人は斯樣な無自覺なる生活から目覺めねばならない。此の意味に於て貯蓄の奬勵は從來の唯物的生活者に道德的反省を促がし、人間らしき生活に立ち返らしむるには意義がある

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

□人間本來の生活

森本博士の說に依ると今日我々が生活して行く上に於て、一個人として生存して行く丈けの榮養を攝るには、一日分の價八十錢を要するといふ事である。八十錢の金がなければ生命を滿足に持續して行く事は出來ないといふのであるから、若しもそれ以下の榮養價を攝つて居る者があるとすれば、それは人間としての十分なる生存を爲して居らぬといふ事を語つて居るものと見做されても仕方がないけれども此八十錢は唯生存に必要な榮養價を攝るに止る金額であるから、人間らしい生活、卽ち時には音樂も聞いて見たいといふ慾望、或は芝居なり活動なりを觀たいといふ要求が起つた場合には何うする事も出來ない譯である。

人間の生活といふ言葉は、たゞ食つて生きて行くといふ意味ではない。少くとも人間として人間らしい生活をするといふ事であつて、食ふ以外に何事かの趣味性を滿足させる丈の手段と方法とを取り得るやうな生活狀態の下に生存して行く事が生活であつて觀れば、現在の或る階級の如きは殆ど人間らしき生活を爲さぬ者が多いのである。

社會問題としての生活問題は此點から目覺めて來なければならない。それには何うしても我々が理性に訴へて、何處までも人間らしき生活を爲す可き事に就て深甚なる考慮を必要とするのである。

我が國で始めての
日曜學校
萬國大會

各地方長官へ檄

肅啓　今般日曜學校萬國大會の我國に開催せられ候に就ては、多分御地に於ても來朝せる同會關係者の歡迎會其他來遊等の儀も可有之かと被存候、然るに我國の習慣として動もすれば夫等の宴席に藝妓を侍せしめ以て酒間を斡旋し歌舞を用ひて興趣を助くるの例有之候へども、元來藝妓なるものは裏面に醜業を營む娼婦たるは明白なる事實に候へば、苟も外國の紳士に對して醜業婦を接待せしむるが如きは非禮の甚しきものに有之、況んや今次來朝せられたる諸氏は悉く宗教家なるを以て彼等の醜業婦たるを知るに於ては一層の侮辱を切感せらるゝ筈と存候に付、何卒今回は特に藝妓を御用ひ無之樣御取計願上度、甚だ乍婆心爲念此段得貴意候　草々敬具

大正九年九月三十日

日本基督教婦人矯風會頭　矢島楫子
救世軍日本書記長官　山室軍平
廓淸會長　島田三郎

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

改造の眞理

廓清會評議員
成女々學校長　宮田脩

（一）

聊か古るい辭ではあるが、「道は近かきにあり」て何事にかゝはらず、改造々々と謂ふてもその具體的なる方法は、案外近き足元にあるのではあるまいか。私共の現在携はつて居る教育問題なども、現在のまゝではならぬ、怎うにか改造しなければならぬといふ議論は隨分喧しい、けれども然らばそれを何う改造したらば良いかといふ事になれば、議論百出して何れが可とも不可とも歸趨するところがないのであるが、吾々が今是非を論じ合つて居ること以外に、吾々が通つて來た過去の事柄の中に、或は現在爲しつゝあることのうちにその最も理想的な妙諦があつたかも知れない。唯だそれを齊しく氣が付かないで過ごしたのではあるまいか。

亦、公娼廢止問題の如きも、妓夫とか破落漢を相手に摸り合うて居て解決の就くものではない。此れは矢張り本に戻つてさういふ處に人が行かなくなるやうに努力をすれば自滅をするのであつて、其れには依然教育、宗教若しくは之れに携はる人々の力に俟たねばならぬ。先づ周圍から改ため、本から淨めてゆくにはそれが餘りに抽象的であり、廻り遠いといふ嫌はあらうがそれが順序である。其の他勞働問題にしても、急がば廻はれ的な事は多々ありはせぬであらうか。唯だ社會の風潮に乘つた場當りのとは多く人の遣るところであるが、それは本末を顚倒した事柄であつて、私共は尤も眞面目に凡てのことを考察して見なければならない。

（二）

私共がいろ〳〵のことに向つて改造を主張するには、それが凡べて利己的な打算から、若しくは一時の賣名手段や、人氣取りの爲めであつてはならない。そしてその出發點は、何時も慈愛の心裡から湧き出されなければならない。孔子の說いた「仁」でも、基督の「汝の敵を愛せよ」と謂つたのも、皆此點から出發して居るのであつて、我等に採つての玉條であり、實に古今を通じて不磨の名言である。

孔子や基督は、その言の裡に、迅くより四海同胞主義を唱へ、之れを現代に傳へたのであるが、先年佛蘭西で議せられた國際聯盟にしても、實に此の大精神に基いて成立したのであつて、我々人類は洋の東西を論ぜず皆齊しく平和に平等に相互の愛の裡に育まれなければならないのである。それ故唯だ徒らに社會の風潮に乘つて、決して輕佻浮薄なことがあつてはならない。

若し世が亂れたり、社會が頽廢した歷史のあとを觀るならばそれは何時も宗教の凋落した時に萠して居るやうである。そしてそれが四海同胞主義の顧られない

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

時代に起つて居るやうである。だから現在にあつても改造の方法は、道は案外近きにあるのではあるまいか。私共は开處に克く注意を拂はねばならぬ。若し之れを顧みずして迂遠く歩むならば本末顚倒も亦甚だしと言ふべきである。

（三）

大本教に對する政府の政策は、甚だ當を得て居らぬやうである。彼れに如何なる根據があるか知らぬが、若し社會の言ふが如くであるとするならば、其麼政策を採るべきものではなかつたと思ふ。

大本教を政府が壓迫したのは、反つて彼をして強固な基礎を築かしめたやうなものである。それは大本教自身の壓迫にあらずして、人心が何等か新規なものを求むるが爲めに引き付けられた、大本教の大を爲したも畢竟人心を支配したそこにある。

大本教を取締らんが爲めに、その印刷物を押へたからとてそれで決して廓清せらるべきではない。それよりも一層積極的に遣るべきだ。凡べて議論といふものは、認識論やロジクでの上にのみなく、凡て事實は擬制の上に判斷せらるべきものではない。殊に宗教上のものは然うである。

理屈の上の議論ではなく、情に依つて團結され、而かもそれが非常に固く結び付けられるのであつて、社會の之れに對する同情の心理作用に外ならぬのであるその情の動くところへ熱烈なる情を以て向ふ時は、それはいよ／＼強固に益々團結されるのである。實際に斯うなるのが人心の恒だと思ふ。

（四）

嘗つてロシアにも、ズホーバーといふ宗教が起つて、トルストイなども非常に之れを讃美したのであつたが、此の宗教は元始クリストをその儘に信仰して戰つたのであつて、是の信者は徴兵令に應じないので、當時の政府は之れを憤り大なる壓迫を彼等の上に加へたのである。而して遂ひに信者等を一束にして、悉くシベリアへ捨てたのであつた。が軍隊の中にもズーホーバーは餘程侵入して居た。

その後英國では彼等をカナダへ送り、彼等の居住棲息を自由ならしめたので、目下ズホーバーは加奈陀に餘程勢力を持つやうになり、ロシア政府は彼等の撲滅を計つたのであつたけれど、結果から見れば反つてその壓迫は彼等に段々と勢力を與へたのであるが、大本教に對する我が政府の取締りなどにもそれに似通つたやうな風がありはしないであらうか、餘程注意すべき事であると思ふ。

若し我々をして考へしむるならば、印刷物の差押へをしたり、彼等の運動を妨げるよりも他に方法があるやうに想はれる。即ち彼等の運動に乘ぜられて、その圏内に捲き込まれやうとして居る人々を眼醒させ、若しくは之れにもつと強い信仰の土臺を與えることにすれば、自ら根據のあるものは榮へるのであるから、何等の根據なきものは自然に衰へるのであるから、十年を出てずして滅びるに相違ない。であるから、更らにそれよりも一層弱いものであるとしたなら、從つてその滅亡も近かき將來のうちにあるだらう。

それ故大本教の如きも、今となつて稍や勢力を得て居る時、世間が餘りに騷いだり、政府が大袈裟な壓迫を之れに加へたりなどすることは餘程考へなければな

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

らない。若し從來の如くんば、反つて火に油を注いて延燒を導びき、思はぬ炎上騷ぎを現出せぬとも限らぬ。斯くては彼に時機を與へて、益々その大をなさしむる所以であつて、これも亦本末顚倒の世相の一方面ではなからうか。

（五）

隨つて目下の社會で問題となつて居るものて、勞働問題でも、またその他の諸問題でも、之れに向ふ態度が變つたなら案外早く解決せらるゝのではあるまいか若し刻下直ちに解決せなければ、後の世には解決さられるであらう。怎うも解決の鍵は案外に我々の豫期しない場所にありさうである。

曾つて瑞西の有名な或る學者が、非常な強度の神經衰弱に犯されて、何うしても治らない。名醫といふ名醫の診療を受け靈藥も屢々服藥し、或は海邊に逍遙しまた山に攀ぢ、手段の凡る全部は盡したが病勢には何等の反響もなかつた。然るに或る日氏は愛馬に乘つて郊外を散歩に出掛けたのであつたが、此の時氏の病を全治すべき機會が計らずも到來したのてあつた。それは乘馬が何物にか驚いて棒立ちになり、同時に氏が墜落の憂き目を見たことであつた。墜落した氏は早速病院に擔ぎ込まれたのであつたがその後二三日の間は全くの人事不省て、漸く我れに歸つた時の氏は病院に來て居ることも勿論その不思議の一つてはあつたが、同時にも一つ全く不可解な事實に遭遇したのである。それは頭腦の樣子が全然變つて居たことてあつた。氏が多年惱んで居た神經衰弱が拭ひ去られた事てあつた。卽ち落馬してから二三日人事不省にあつた氏は、その間讀書は勿論、一切何事をも考へなかつた、そのお蔭げて宿痾を癒すことが出來たとのことてあつた。偶然の遭難が計らざる機會を齎したのである。

斯ういふことは極めて珍らしいことではあるが、奇禍が機會を生む場合もあるのである。凡て機會といふものは全然方面違ひの場所にもある場合もあるのであつて、凡べて問題の解決の途も既に我々の通り過ぎた後にもあつたかも知れないし、案外に近いところにあるやうであつて、怎うも开麼風に思はれる。

―職業婦人の自覺―

黎明は至りぬ。夜の戶張りは全く明け放たれた。女は家內に三月の節句雛のやうに、お行儀よく唯だ坐つて居るものといふ長い間の因習もやうやうに破られて、深い夢から眼覺た婦人達は、今や各方面にその地步の開拓に從がふやうになつた。そして今までの囚はれた境遇を脫しやうと努力して居る狀は、いじらしくもあり賴母しい。

先頃開かれた全國敎員大會て盛に論議された各府縣單位の女敎員會は、まだ大阪府と德島縣のみに過ぎないが東京府ては十一月七八日の兩日府立女子師範が中心となつて卒業生千五百名の中、現職にある九百人の女子訓導を同校に招集し研究會發表會を兼ねて、東京府女敎員會組織の問題を議するといふことてある。

此の企ては誠に時機を得たものである。由來男子敎員本位の敎員會に、現に男子の數とそれ程大差ない婦人達が隸屬して居るといふことは甚だ不合理なことてある。門外漢の私共には怎うしても其の理由が不可解だ。そこて今度女子師範が産婆役て婦人本位の敎育會を創立するといふことは、その間に或は多少の情實などは免かれ難いとしても、それは過渡時代の現象として暫くは忍ばればなるまい。兎に角婦人が自由にその抱負を開陳し得る機會の出來ることは結構である。從來の如く男子に掣肘せられて居ては、研究も抱負も何もあつたものではない。何うしても女敎員は女敎員同志が集まつて語るといふことは、男と女とよりも連絡も統一も採りよいてあらう。研究をするにしても異性者は諒解の不可能な場合もあらうし、必ず便宜の點は尠なくないてあらう。

希くは産婆役は完全なものを産ましめるやうに努めて貰ひ度いものである。そして他の職業婦人達も各自の爲め一層奮起して貰ひ度いものであると思ふ。（圭）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

理想と生活苦（二）

——自由は我等の生命であり、生活は我々の既得權である——

足羽清美

□蠢動く人間

吾々は生れながらにして口を持つて來た。卽ち吾々が此の社會に生存してゆく爲めには、生命の存る限り吾々が生活するといふことは既に決定された事實であつたからではあるまいか。輙ち、吾々が生きる爲めに食ふといふことは、出生に伴うて既定した事實であつて、食ひ得ないといふ嘆聲や食はせろといふやうな悲痛な叫びも俱にあり得べからざる事柄であるやうに懷はれる。唯だ悠い人間が他の動物よりも多少小怜悧く出來て、些ばかり頭の働くが爲めに反つて社會が複雜になり、其處に種々なる幾多の悲劇の發生する機會が生じたのではあるまいか。斯うした機會から狂暴なるブルジョアも産まれ、悲慘なるプロレタリアも出來たのではあるまいか。

然し、私共人間は宇宙の眼より觀る時は、僅かに地球の表皮の上に蠢動して居る一箇の寄生蟲にしか過ぎないのである。而かも僅かに五十年ばかりの短かい間呼吸して居るに過ぎない動物なのだ。然るにその間に貴賤の差別貧富の懸隔が設けられて、その或者は嬌奢を極め、また或る者は下層に沈淪して恒に耐へ難き壓迫までも他の者より受けなければならないといふ理由が那邊にあるだらうか。況して活きてゆく上に必要なる糧も得られないのみか、病の爲めに倒れても猶且完全なる看護をさへ享けることの出來ないものがあらうとは、私共には何うしてもその理由を發見することが出來ないのである。しかし恁ういふ事實は私共の周圍には恒に枚擧に遑ないほどに數へられ、而して不斷私共の生活を非常なる力を以て脅威して居るのである。

□慘めな死骸

極く最近に、靑雲の志止み難く羸弱の身を携へて遙る〳〵北海道から上京して居た一靑年K（前號のKとは勿論別人である）は、薄給の爲め充分の療養も出來得ないで、可惜幾多春秋に富む將來を殘して年を享くる僅かに二十三にして最も慘めなる死骸と化り、狹隘なる下宿の一室、六疊の部屋の片隅で哀れや天帝に召されたのであつた。

彼は生前にその下宿を非常に嫌忌つて居たのであつた。そして、下宿の冷酷なること、亦自分を肺患者であると罵つたとか言つて憤慨して不平を喞つて居たことは一再てなかつた。然るに、彼はその尤も嫌忌な下宿屋で永の眠に就かなければならなかつた。と同時に彼の以て冷酷なる罵詈者と做す人々からその迷惑顏の裡ちに送られなければならなかつた。

彼が當に息絕えんとする刹那に奄ぎ奄ぎ洩らした言葉は『病院に入院し度い』といふ悲痛な生を慾求する爲めの慘哀な一語であつたさうだ。そして恰度その時傍に居た彼の實姉が『今は動かすこと

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

は出來ないから、良くなつたら』と慰めるのを彼は『良くなれば入院の必要はない、惡いから入院仕度いのだ』と言つたさうである。而かも實に此れが彼の辭世てあつたのてある。

鳥の當さに死なんとするやその啼き聲は言ふべからざる哀調を帶びて居るさうてある。彼の彼の最後の悲叫は洵に偶然てはなかつた。二六時中不滿に思つて居た環境から瞬時も早く脫し度いといふ焦燥の氣分もあつたてあらう。勿論彼は、自分の生命の存續を承認し本復を希望して居たことは言ふまでもない。隨て彼は今日の醫術の進步は自己の生命を托するに充分てあり、醫師は自己に尤も忠實なる僕婢てあるが如く信じ切つて居たに違ひない。而してその間に、最早や打算の觀念は毛頭なかつたことも想像されるのてある。

然し社會は極めて打算的てあるが爲めに、彼の希望は終ひに容れられず、自己の需むる安心立命の地に一步を運ぶ事も得ずして、彼は長き恨みを懷いて永遠の旅路を辿らなければならなかつた。

K青年の訃を聽いて私達がその下宿に弔問した時、私は廊下との境界の障子を排して彼の眠れる部屋に這入ると同時に彼に對する悼ましさの外に、その部屋の空氣は私の心頭を忿怒の方面へと導いたのであつた。それ丈け私の腦漿は混濁せしめられたのてある。

彼の死骸は顏面をハンカチて蔽はれて片隅の方に置かれてあつた。そしてその枕頭には彼の食ひ餘した現世への遺品であらう、赤い林檎が三ツ四ツ小さな盆に淋しく乘せられてある以外に、一輪の花もなく一縷の線香も焚かれては居なかつた。遺骸はたゞ邪魔にならないやうに部屋の一隅に置れてあるに過ぎないのだ。のみならず側には綺羅を着飾つた婦人達が、互に『宅は狹まくて』となるべく自分の方に死骸を引き取るまいと努力する責任回避の小田原評定や、聞くに足らないやうな雜談をしてをる態は、怎うしても死骸の傍といふやうな氣分はしなかつた。而かもその婦人といふのは伯母と姉と從姉て伯母と從姉はともに一家を構へて居る人てあるといふ事てある。

殊に從姉は餘程亢奮した面持ちで、可成老練な口振りで『一體死體を預るところはないでせうか。若し旅行先で死んだりなどした時は何うするのでせう。東京などでは通夜をするとしても狹まくて困まるものが多いのですもの、死體を預かつて通夜の出來るやうな設備があつても可い筈ですわ』とその權幕は頗る鋭く到底中るべからざるものがあつた。

その時である。私の耳に幽かに囁いたものがあつた――『私は未だ死ぬのではなかつたのです』といふ。それは確かにK青年の哀叫であつた。現在骨肉の關係者が枕邊に、恰も全然の他人を取り扱ふが如く、冷淡にも行路病者扱の相談をするのを聽いては、若し靈魂實在說が眞實ならば、悲憤の涕を絞らずには居られない筈である。その後何う話は纏まつたか、幾多の紆餘曲折を經て、結局從姉の家に引取つて二三日後私は恰度病氣で臥て居たので列席することは出來なかつたが、其處で告別式を行つたさうである。

私は竊かに考へるに、死體を安置するには決して廣い座敷の必要はない。假令二疊の部屋でも三疊の間でも通夜には一向差し支へはなからうと思ふ。虛榮の爲めに飾られた大きな花輪よりも、心から

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

手向けた一輪の花の方が遙かに死者の靈を慰めることが可能るであらう。

然し、人々が動もすれば此の轍を踏むことのある其處には現代社會組織の缺陥が窺はれるのである。恰もK青年の死體引取に就いての逡巡回避は、一面に於ては其の間の消息を尤も雄辯に説明して呉れたのである。とともに、また經濟組織の不完全なる結果が如何に人心に影響しつゝあるかゞ看取せられるのである。

□慘酷なる苛斂

若しも我々無産者階級の者が一朝病に仆れたなら、夫は同時に死の宣告を與へられたも同全だといふことを私は痛切に感じさせられて居る。病苦の脅威から脱却すべき何等の手段も機會も我々には與へられて居ないから、卽ちプロレタリヤートは病床に呻吟ても疲憊して居る財嚢の爲めに醫師の診療を受けることは到底可能ない。病が長延けば馘首更職の危惧に襲はれずには濟まない。隨つて其日々々の糧にも影響し餓死しなければならないといふやうな順序は何の遠慮もなく到來し、資本家の手に依て斷案は下されるのであるから。

然るに爲政者は恁麼問題には何等の考慮も拂つては居ないやうである。唯だ自己の慾望を滿足せしめる爲めに金儲けに齷齪して居る政黨者流はあつても、社會の康寧を考へ、人類の眞の福祉を謀るほどの政治家は居ないやうである。

それは所謂慈善病院であるとか、施療病院であるとかいふやうなものはないてはない。けれどそれが此の問題の解決に恁れ丈けの效果があるか。その實際の狀態に我々が考へ及ぶ時、寧ろ私共はそれ等の存在を拒否すべき程度のものではあるまいかと思はれる。或る時、當に息絶えんとする瀕死の急患者を某病院に擔ぎ込んだところが、入院手續の不備な爲めに其の應答の間に終ひにその患者は一匙の藥を嚥下ことも得ずして眠つて仕舞つたといふ事實譚もある。また朔風荒む冬の或る晨震えながら診察を請ふべく病院を訪ふたところが證明書が無いとか職業がどうだとかと言つて、無情にも玄關拂にされたといふ悲話もある。亦入院患者に對する看護婦の態度が一般に甚だ不遜てあるといふ噂もある。之れは一看護婦の態度が或は誇張されたのかも知れないが、動もすればナイチンゲールの眞摯な熱烈なあの心事を忘れて自己の職掌を無理解て居る人は事實あるだらうと想はれるが、一つにはこれもその病院の縮圖と見ることも可能る。そして某る病院では若し患者の死亡した時は、本人若しくは死體引取人の意志の如何に關はらず、必ず之れを解剖に附して、後は死骸室に投り込むておいて引取人に引渡すといふことである。

死者の意志が其處にあつて死體を解剖して聊かでも社會に貢献することが可能るなら、死者も以て冥すべきだ。けれど若し解剖せられることを欲しない死體に對して無理にメスを觸れたなら、それは死者に對する慘酷なる取扱である。啻に死者の人格を沒却した侮辱であるばかりてはなく、生存中疲憊して居た痩骨に對する苛斂である。隨て非博愛的であり、事ろ悖人道的なる動作であるといふべきてはあるまいか。

假りに是等の病院にでも入院爲し得た人達が、幾分でも他の辻に仆れた所謂行路病者と稱えられる人達よりも幸福であ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

るとしても、その取扱は實に斯くの如くであるとしたならば、人間の取扱ひとしては餘りに慘酷過ぎはしないであらうか。況して私共は凡ての恩澤には平等に浴すべく、互に等しい機會に於て同樣の狀態で產み出されたのではなかつたか。

□覺めよ政治家

社會の眞の和平を保つには、各人の平等といふことは怎うしても度外視することは可能ない。若し高下尊卑の別を存するならば、双方の反目嫉視は到底免ぬがれ難いであらう。卽ち其處に扞格鬪爭といふやうな事實も顯はれて來なければならないのである。

それ故爲政者は恒に眼を此の大局に注ぎ凡ての政策も此の見地から捻出せられなければならない筈である。

從來政府當局者が採つて來た社會政策は、その施設の悉くは結果に於て甚だ面白くない事ばかりて、一向に合點のゆかぬものが多い、單に一部の奸商を跳躍させた以上の效果をあげたことが果してあつたてあらうか。

由來政府の仕事には必ず政商が伴侶となつて居るやうだ。政府の仕事には何うも無駄が夥過ぎるやうだ。過般の國勢調査にしても秩父山中に新部落を發見したと言つて自分達の精勤振りを喧唱する者のある一方には开麼事實は絕對にないと反駁して（當該管轄小林區署員）青筋を立てゝ居る者もある。开うなると我々國民は何方を信じて可いか全く迷はされざるを得ない。これは一例話に過ぎないが槪ね政府の仕事の不統一なることは斯くの如きものである。間隙があるから奸商も喰入る機會を得るのである。

开處て爲政者に對して私達が要求しなければならないことは、眞摯に親切に白熱の誠意を以て、眞に我々が平和に互に睦み合つてゆくことの可能る社會の現出に最大の努力を拂つて貰ひ度いといふことである。

それには恁ういふ問題は放擲つておくべき性質のものではない。現在設立されて居るものも事實に於て到底負擔に耐えらるべきものではないが、假令噂にもせよ實狀は上述の如くであるとしたならば私共には首肯可能ない。抑も慈善とか施療とかいふことは名稱も甚だ不穩當てあると思ふ。

貧富の懸隔はその個人々々の努力の差異のみに原因しては居らないと信じて居る私には、殊に施療など〻いふ文字は非常に宜敷は考えられない。若し假りに施さねばならぬ人間があつたとしたならば、それは何うして出來たかを、先づ私共は考慮して見なければならない。然し私は、施すべき人間といふもの〻存在を怎うしても認めることは可能ないのである我々は病めば卽ち醫師の完全なる治療を享けるといふことは當然でなければならない筈である。醫師は此れ等患者を診療することに依つて、社會に奉仕する所以てあると思ふのである。然るに我々の現實生活には種々なる障害があつて、完全に之れが行はれないのであるから、其の缺陷の補塡は我々の現在相倚つて形成つて居るところの生治體、國家が爲すべきてある。卽ち政治家が此の問題の解決には最大の努力を傾注すべきてある。政府が國立病院を隨所に建設し安心して療養爲し得る機關を造ることに憑つて、現實生活の不平等が幾分でも緩和されるてあらう。（續く）

娼妓病院手記（十一）

前某驅黴院看護婦　田口和子

十月卅日（日曜日）

晩方から曇つたらしい陰欝な空模樣は、やがて絹糸のやうな細い冷たな雨を地に落し出した。氣の塞りさうな空氣がヒタ〱と身に迫つて來て、言ひやうのない悪寒を覺える日でありました。

いつもと同じやうに、洗滌所で立働いて疲れた體軀を椅子に凭掛けて休むで居た私は、今日も復たきのふと同じやうなMさんのドラ聲が隣室から響いて來るのを耳にするのでした。

『警察の方から何うしてお前は商賣をするんだ。と訊かれたら、お父ッさんか又はお母さんが永らくの病氣で、何うしても私が身賣りしなければ助からないやうな有樣なものですから。と斯う曰ふんです。』

毎日さういふ言葉を聞かされて居るものの、その言葉をいま改めて此處で聞きますと、やはり私の胸がギクリとするのを何うする事も出來ませんでした。

『あゝして尊い一人の女性を生殺しにしてゐる』と、私は私の心の中で、斯う叫ばずには居られません。

『悪魔の手に懸つて身を滅しつゝある多くの女性、その罠を斯うして毎日見たり聞いたりして居りながら、それで手出しをする事も出來ないで、斯うして胸を苛々させながら苦悶の日を送つてゐなければならない現在の私』

さう思ふと、今更自分で自分の傷しくなる身の上を悲まない譯には行かないのでした。

Mさんはいつもと同じやうな調子で『借金は、上げ代をみんな親方の方へやつて、それで濟す事に致します）と斯ういふんだ』

念入れに懸命になつて敎へてゐる。

較替になつて來る多くる㐫娼妓連には、さうした讓習などをする必要も無いんですけれど、田舍から出て來た許りの世情に疎い、單純な心を抱いてゐる女には、是非ともそれが何よりの事になつてゐる一つの肝腎な事なので、Mさんは一所懸命になつて敎込むで居るのです。そしてそれが現在のMさんの大切な仕事なんです。Mさんは、もと、ある警察署に勤めてゐた事のある巡査あがりて、現在では其の大切な役割に携はりながら、合間々々には借金の契約書を作成したり、洗滌出頭印を捺したりしてゐるのです。それでさも滿足さうな日を送つてゐるといふ、悪氣のなささうな人なのですけれど、それでゐてその口から出る樣々な敎へは全く別人のやうな利きぶりなんです。

他人には推し量る事の出來ない、勞苦の創痍の惱みに呵されながら、壓碍者の身の上になつてその日を送らなければならないやうな破目に陷るのも、そのMさんの敎へに與つて力ある事だ。といふ事を考へますと、何故か私の心は沈むで行きました。

十一月一日（火曜日）

悪性の感冒は、遂に吾が市をも恐ろしき勢ひで襲ふて來た。今宵又七號室（感冒患者室）に夜を明かすべくM樣とみとりに行く。と、その中の輕症者富勇さんが眠られぬまゝに、身の上を語つて聞かせたのは満更無理でなかつた故訛さう。「富勇さんも隨分長い入院て、歸りたいてしよ」と云へば「いゝえ……もう今は何とも感じません。國元にも店にも歸りたい等とは、一寸も思ひません。どうでもなれつて氣ですから……」と云ふ「廢業してかたぎになりたいとも？」と云へば「えゝそれも初めの内は、何とてもして素人になりたい〱と思うて居りましたけれども、今はもう商賣がつらいとも何とも考へぬ樣になりましたよ。又ー私たちもう今からかた氣になつても、まじめな仕事には手が出せませんわ。長い間、寢て起きては食べ〱した習慣が引つ着いてますから」と、出られたのには、さすがに驚いて暫くは、口が利けなかつた。

しかし是れも事實、姉妹が心の叫びであれば仕方がない。「じやあ、斯んな氣樂な商賣はないから、何時までもしたいと思つて」聞くと「いゝえ、無理にしたいとは思はないけれど、くよ〱したつて、金で買はれた身の泣き寢入りする外他に、これといふ手段もありませんね。入院でもする時にみんなは泣く、けれど私たちもう年が延びれば延びたて、又先きはどうにかなるだらうと思つてるから悲しい事も何ともない……」と云ふ。全く神經が麻痺してるんだと思つた。「でもいつそ悲しいと思ふやうな事でも全くないとは云はれないてせう」と深く問へば「そうね、まあ稀に思出すと云へば、子供の事位のものてしよ」と。

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

それから彼女が筑前の博多へ出てゐた時、姙娠して某會社長の息子へ妾として受け出され、圍はれてゐたけれど、息子が其の爲め多分な金を費つたが爲めに、勘當を受けおまけに酷い病氣にかかつたので義理に迫り、再び身を賣るやうになつた事、そしてこちらへ來てゐる内に、男は勘當を宥され同じ富豪から妻を迎へたが其の間に子供なく、富勇の生むだ子を貰受けて育て居る事等、くはしく語り「私は外に不足を云ふのじやないが、私に一言も相談しないで勝手に子を取つたのが情ない。お母さんは、子供の爲めに此の上ない結構な事じや、私もお金を貰ふたから」と、云うて悦ぶけど、私は忘れられぬ……」と、さすがにしみ〴〵したので、私等も思はず泪に暮れたのであります。やゝして、

「じやあれ！一番樂しいと思ふ樣な事は、どんな事？」と、聞いたら、即座に「お酒だれ。それから芝居！活動！まあそれ位のもんですよ。他人の人は、よく着物をお客さんに拵へて貰ふのが一番樂しみだつて云ふけど、私等そんな物はちつとも欲しいと思つてない……」と、眞に浮世の波をくゞつた半生を偲ばせるやうな事を云ふ。

噫!!私等は、斯る不憫な姉妹達をいつになつたら、完全に救ふ事が出來るのだらうか？誰か心合して力を添へて呉れる人があればいゝ。……弱い事を云ふ樣だけれど、事實!!

六日（日曜日）

噫!!駄目〳〵、私もうどうしていゝか解らないわ。かつて神樣へ特別に此の姉妹の爲め「御心ならば致し方ありませんけれど、數多き姉妹の中にもあなた樣の尊き數へを喜びつゝあるものは誠に僅少でございます。今重き病に惱むで居る姉妹は、その中の一人です。どうか〳〵神樣、末頼母しき此の姉妹をお召しになる樣の事なく、今暫くでも宜う御座いますから、地上へお止め下さい……」と、お祈りしてみたりしてゐたんですのに、其の甲斐もなくAさんは〳〵、遂に昨夜逝つたじやないの、附添ひのおかみさんが、夕飯に歸られた時、行つて氷嚢を代へてあげてゐるうち「Tさん〳〵一寸見て下さい。天から馬へ乘つて私目がけて飛むて來よつてよ。れ、わかるでしよ」と云ふので、思はず心中に「あゝもう駄目、之はきつと天の父樣がお迎ひにお出てなすつたのだらうとは思つたが、泪かくして「ばかな事云ふものじやなくつてよ。そんな筈があるもんですか」と云つたら「いゝえ、いゝえ、あなたは駄目よ。見やしないでうそを云ふかう見て下さいつてば、一人でなく二人ですよ。私、あなたが見る迄、私も見つめてるから」と凄い〳〵、それは何とも云ひ樣のない瞳を据ゑて天上をにらむので仕方なく「えゝ〳〵見えてよ。ほんと、あそこにね」と、云つたらおちついてか靜に眼を閉ぢたので、私は傍らで一心に默禱してゐたのです。すると、夢から醒めたやうに「あ！私もう少しで歸りそこなふ所であつた」と呟いてパッチリ開いた瞳、噫！その瞳の優しい輝き冷やかだつた事!!!おそらく私は死ぬまで、否！死んでも忘れやしないと思ふ。

斯くして夜の九時過ぎ、愛する吾が姉妹は永き眠りに就いたのであります。原因は今の惡性感冒より、急性肺炎、心臟痲痺と移つて來たのでした。入院する前より惡かつたのを我慢して店に出てゐたとかで、一週間前入つて來た時、彼女は「あ、之れから思ふやうに寢られる」と云つて、むしろ悦むでゐたのです。それを思ふと人間の悲しさには、つい愚痴を云ひたくなるわ。も少し〳〵早く、風邪にかかつた時から養生して、夜の更ける張店なんぞ止せばよかつたのに……と殘念で〳〵たまらないんです。

九日（水曜日）

何處かに冷たさ相な鋭さを含むだ透明な秋の輝が、甍の波のやうにうね〳〵してゐる街の下から照り榮えて來るその光線を眞正面に受けてゐる哀愁の漂ふ病院の一室に、白いベットとは謂ひながら、如何にも見窄らしい夜具に包まれてゐる彼女の死骸、そこに集ひ寄つた多くの人達の中には、心から彼の女の死に對して、言ふ事の出來ない厚い同情の泪をふり注いでゐる者もない譯ではないけれど、**やはり慾の眼で見るものが多いのは爭はれない事實でした。**

「到頭死んで了つた。」よもやと思つた事が、確かな事實として其處に見せつけられた彼の女の死に對して、憐憫の情の湧くのを抑へる事が出來ないやうな、半ば主人の胸の中をも考へて見て遣らねばならないといふやうな、食ふ事と同情との爭ひに掻擾しられるやうな面持ちを浮べながら、さう云つて或る番頭はホロりとした。

「斯うして死んだ姿を見りや、今更可哀相な氣もする」と、云つて主人は、生前主と從との間にまつはり附いてゐた借用證書だの、揚代金の計算帳だの、或は時貸しの通帳のやうなものだの迄、その棺の中に入れ「是れを持つて行けよ。」さう云つて眼をしばたゝいて物優しい語調で傷しさうな面持ちてゐたのでしたが、それがものゝ三四時も經つかたたない内に

「考へて見りや、忌々しい話さ。死んで行く癖に、碌々金も溜めてゐない此の女の圖太い心持が判らない。しかも死ぬ僅ばかり前に、親から六十圓貸して呉れといふて來たので、何うかとも思つたが、まさか死ぬやうな病氣でもあるまいと、貸してやつたものゝ、今て考へて見りや惜しい事をしたものだ。それに此の女はまだ十圓餘りの現金を持つてゐた筈だのに、それが何うしても見當らない。實はその金で皆さんの御禮をしようと思つてゐたのに、困つた事をした。」

と云つて、自分の懐中からは鐚一文だつて此の女の爲めに出す事などは出來ないといふ分疏を聞きますと、私は、たゞ此の場合、自分で自分を憫まない譯には行かなかつた。

* * * *

やがて黄昏になつても、たゞ廣い病院の或る一室はさうした話はそれからそれへと果しなく續く。窓硝子越しに見える月明りに照りはえてゐる街の甍の波、ベールを透して見るやうな灯の漾ふ明るい美しい町の空には、偪ふやうに秋の冷さが押迫つて來て、何とも謂ふ事の出來ない物淋しい氣持は此儘永遠に續くやうに思はれました。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

在支同胞の發展と飲酒（上）

於上海　小原榮次郎

――植民地氣質と飲酒――

財界の大動搖に連れて會社商店の引上げ、個人の失業も續出して支那發展の基礎も根底から不安を感ずる今日私は自分の狹き經驗と感想を雜然ながら發表して同胞諸君の御一考を煩はしたい。

私は支那に在留する事十六年、十二省の地をも旅行して幾分支那の事情も解つたのであるが其間十年は飲酒放蕩を續け後六個年は今日に至るまで禁酒斷行して來て過去現在を考ふるに『酒位なんだ、殖民地で酒や女位當然だ、趣味でもあり慰安でもある』と太平樂を言ふて飲酒してゐる事が如何に多く支那發展の上に惡結果を來すものであるかを實驗して苟くも對支那經營を策する人支那に在留する人が是非共禁酒せねならば對支經營は一時的好況は時にあるべきも結局は砂上の樓閣で隨々たる商權も一朝排日或はパニックでも食らへば消へてなくなる如き果敢なき狀態に陷る事を斷言して憚らないのである。

――荒める彼等の生活――

空論では役立たないなら玆に二三の事實を擧げて見る、お斷りするが私は揚子江附近上海を中心として居つたので北支那、南支那は餘り知らないから申上ないが其等地方は以下示す樣な事柄では上海揚子江流域以上に猛烈である事は一般の定評である。

上海在留日本人數大正六年調

總數	一三、九一二人
内　男	七、六六六人
女	六、二四六人
藝妓料理店	十九軒
飲食店	三十六軒
乙種料理店	四軒
甲乙兩藝妓數	二百人
遊興費（一箇月）	七萬九千弗

▲大正八年調

人口總數	一八、二五八人
内　男	一〇、三一三人
女	七、九四五人
藝妓料理店	二十一軒（二軒增）
飲食店　女郎屋は	前同數
藝娼妓酌婦	四百七十六人

前年度の遊興費に比例して人口增加と物價騰貴を加算すれば優に倍額にも達すべきも内輪に見積り五割增とするも

毎月遊興費約十二萬弗
一箇年一百四十四萬弗

之は全然日本人對手のものであるから即ち在留邦人丈けの消費高である而も其内には藝妓の枕金や酌婦の情約金は洩れて居る上海在留邦人の三分の一が自己收入で生活する男子とすれば六千〇八十四人であるから十三人の男子に賤業婦一人が附隨して居り其男子は平均一個年二百三十弗づゝの遊興費を支出する譯になる純酒代は私の各方面からの研究の結果遊興費の二割であるから一個年二十八萬八千弗料亭以外各家庭等で用ゆるものは量に於て更に多く價に於て略同額であれば合計五十七萬六千弗即ち上海の男子一人平均に九十五弗宛一個年に飲む譯である。

酒の量や代金だけの損害でなく所謂『[illegible]の原因なり』で之が遊興費の全部を惜氣もなく費消するのみか實に多大の時間を空費させ種々雜多の波浪事件を惹起するのである。此に對し

上海在留者の收入如何と見るに

毎月二百弗以上のもの	五六〇人
二百弗以下七〇弗位のもの	七八七人
其以下	四、六三七人

收入には雜貨店の店員の月五弗位より職人等の十弗乃至三十弗位のもの多く、會社商店員にては五十弗乃至七八百弗であるが高給の支配人級は極小數であるのは當然である斯る收入の在留邦人が平均一個月二十弗程も遊興費を支出するとは實に驚くべきで其の爲め會社銀行員の如き風彩堂々たる青年紳士を裝ふ人達の内幕を覗くと料理屋の仕拂以外洋服、靴、雜貨、食費等の日用費までも借金のヤリクリ算段で電車賃にも困る樣なミジメな生活振りは其原因は收入不足よりも飲酒亂費で常識さへ塞される結果である。

――彼等の飲酒の現狀――

多くの人が、近頃の在留民は自覺したから以前の樣に馬鹿遊びをやり、大酒を飲む者は少くなつたとは、よく聞く所であるが事實は反對である試みに最近九月二十一日の經濟紙記事を轉載すれば

不景氣の爲めに失業者の增えた事は明白な事實であるが、今回居留民團に於て調査した八月、九月の納稅者の數は八月所得稅　一四八四、營業稅六五五、手數料二六八で九月は所得稅一四四六、營業稅六五七、手數料二六七であつた目下佛英租界方面の各會社でも人員大淘汰の際であるから八月九月を比較すると一箇月間に三十七名の所得稅納附者即ち相當收入のあるサラリーメンが減じた事になる又營業稅　となると九月は八月より二人增えた事になるが、納稅金額は減じてゐるのを見れば大商店が店を閉じ、貧弱な商店が增した事實が判る。それでも此の不景氣に際して花柳界は比較的凋落しないと見えて手數料　納附の藝妓連は八月九月の比較に依ると一名を減じたばかりである』

即ち此の如くて、遊ぶ者が減らないのか藝者料理屋

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

の根底が強固なのか、何れかでなければならぬ。

其處には抜道もある、即ち會社の經營費交際費等の名目で、全體半額位は費はれるので、商賣上の不正行爲と、青年店員に堕落の教授、酔狂と馬鹿と、家庭の不和と、産兒の病氣等は全然個人的に背負込むのである。

――飲酒と犯罪と病毒――

明治四十四年（總領事館調査）犯罪統計（其後の統計出來居らず）

居留民數	七、五六八人で
犯罪名別	二十七種
犯罪者數	百九十二人
内泥醉亂暴犯罪が	三十八人

即ち各種犯罪事故中直接飲酒に因るもの最も多く、其上泥醉事故は他の犯罪とは違ひ大抵は見逃し或は說諭放免になるのと、他の犯罪原因に幾多の飲酒關係のあるのは、爭はれぬ事實なれば、飲酒が在留邦人を如何に多く犯罪者になしつゝあるかは、徒らの空論ではない。

現在の在留民數增加と犯罪とが相比例するとすれば、今や上海の日本人は一ヶ年間に九十五人乃至百名の泥醉亂暴犯を出すのであつて、男子六十人中の一人は必ず毎年領事館罰則を犯すものとなるのである。

飲酒放蕩が、衛生上如何なる結果を來すかは、既に専門家の定說のある所で、支那在留民だけが例外になる譯はないが、上海で邦人の衛生狀態を調べたいが、其の筋にも統計もなく手掛りが少いのには困つて居る、殊に花柳病と飲酒の關係密接なるは見逃す事の出來ぬ事實である。

――居留民行政委員――

筆者のため昨大正八年中の在留同胞の出生と死亡を摘記すれば出生三、五〇人、死亡三、九〇人であつて人口增加に苦しむ大和民族として此の結果の原因は何所にあるかは、上海在留者が研究せねばならぬ緊急事ではないか、私は獨斷ながら、飲酒放蕩が大原因をして居ると信ずる者である然るに現在上海居留民行政委員十二名中の二名は酒屋で、課稅委員中の一名は醫者屋で、料理店の主人二名は別の酒屋營業者が入つて居るヒドイのは學務委員と出納委員にさへ酒屋が關係して居るのみならず日本の代表商人たる三井の如きさへビールの一手販賣店であつて、大小五六十軒の酒類取扱店と前記の料理店等があるのでも、上海在留日本人と酒との關係が如何に深い因果關係があるかは知れるのである。

――漢口其他の地方――

以上は上海實情の一端であるが揚子江の中心地たる漢口は如何かと言ふに

漢口在留民數現在約	二千七百七十五人
内　男	一七三一人、女一〇四四人
同　藝妓屋兼料理店	八軒
同　飲食店	約十軒
藝妓酌婦	百七十九名
一ヶ月遊興費上り高	約二萬四千弗

漢口在留邦人中、自己收入で生活する者は八百名乃至千名と稱せられるのであるが、さすれば六人の男子は一人の藝妓或は酌婦を養ふ譯で、一ヶ年平均三百弗位の遊興費を散財して居る勘定で、事實上海よりも猛烈であり婬らであつて、飲酒量も隨へ事故も增す結果藝妓と情合世帶する者私生兒の增加、店金費消の頻々たる實に驚く所である。

右兩地の實況は、長沙、九江、其他も大同小異適用出來るのである。

――沙上の樓閣――

今年春までの、日本内地財界の好況時代は、思惑取引や、投機的に、浮いた〳〵て、エライ勢ひで、各會社銀行は、地所の買入れ店舗建築と大發展振りを示したに似ず、一朝大パニツクの起るや、實に慘憺たる悲境を現出し個人も不安の極に沈淪する狀態を現出して居る現狀である、斯くの如く我々が在支那經營幾年、漢口、上海の大會社、商店、個人に至るまで、商權の擴張發展、隆々たり地盤は固しと自惚れたも束の間で日本内地の影響のために直に根底から打破され、危機を感ぜぬものゝないのは果して何に原因するのであらう、日本内地の投機的商賣に釣り込まれ戰時利得等に有頂天になつた罪もあらうが、夫れにしても、支那に植付けた根底が何かあらう、パニツクはあつても何か根底は殘らう、何がある？と先覺や物識り、當事者に就て聞くも、殆んど一樣に之れと言ふ地盤のある事を告げ得ない、而も支那にある會社商店が大多數、缺損續きで、外面の擴張は多くは日本よりの援助と、銀行信用の亂脈なるに乘じて作つた、沙上の樓閣の如きものなりとの事で、中には紡績其他土地放資の如き地盤の固き發展も幾分有るが其の内の小數を除けば、財界の動搖につれ如何なる運命に陷るべきか、頗る寒心すべきもの多く努力の結果の根底であると思へるものは誠に心細い位だとの事である。

――榮えるは料亭而已――

唯萬口一致、我れ〳〵在留民の發展の結果は、藝娼妓料理店の發展基礎のみは確に唯一の事實であると、私もソウ思ふが、成程上海の六三亭、月廼家其の他の家屋、庭園等の實費價格は二三百弗に上り、常に藝妓の二百五十人其他で四五十萬弗のストツクを以て營業しつゝあり、在留民で日本に別莊でもある人は、先づ此等は始めに殆んど無一文から仕上たものと言へば事實上海で築いた地盤である、漢口も同樣で、三好館、福宮、喜樂、老鶴等が發展して儲けたのは、在留民が十幾年働いた汗の結果であるとは聞いてピツタリ玉ド箱以上ぢやないか。試みに上海同胞間の社會事業の經常費を擧げて見れば、民團及び小學校等は毎年民會に委しく報告されて誰も知る如く、爲すべき事も多々あるが經費の都合で出來ず、クラブは昨年幾分の利益を擧げたが、借金を無期無利息に借換へたのと、財界好況で大宴會多かりしに因るので、今年は樂觀出來ないだらう。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

編輯之後

■一度經濟界の變動が傳へられ、恐慌風が吹いて來たとともに、今まで不景氣風は何處を吹くかと言つたやうな樣子で浮は〳〵と上景氣に醉つて居た人達も、忽ちのうちに其の顏色は蒼者に化つて、恰も暴風雨の晩に屋根の瓦の破砕して落ち散つて來るのを見て狼狽周章殆んどその極に達し、爲すべき方策を知らないと同じやうに家の傾い倒潰するのを見ては流石に慄え上つてその施すべき術べを見出すのに焦燥つて全く盲目になつて居るやうな狀態を現出して、局外から觀て居ると笑ふにも笑はれず、同情したくも同情の出來難いやうな聊か滑稽味を帶びた悲劇を演出して居るのは、實に泡沫の如き所謂戰時成金といふ大一座である。

■昨日までは夢に夢見て浮かれ廻はり、心身共に荒みに荒んで狹斜の巷を花に狂へる獅子のそれの如く驅驅して、可惜文明の利器を逆用惡用至らざるなく、疾走しては紅燈の下とに綠酒を嚥下して垂涎三千丈鼻下亦八千丈、凡有る醜體を演じ、風紀を紊して誇ら顏して居た成金連も、可憐といふべきか將た應報といふべきか終ひにそれも槿花一朝の淡き夢であつて、今は宛ら俗に謂ふ所謂菜の葉に鹽を撒いた姿にも似て、全く萎れ果てゝ昨日の元氣は何方へ霧消したか影をだに止めず、今は氣息奄々動きも得せず、紅燈の淋びれて絃歌も次第に聲絶ち、玆に漸く風紀肅清の曙光も遙かの彼方に見えそめて來た。

■昨日までは浮かれ男の多かつた爲め、採算上の都合から表面丈けは柔和に極めて溫か味のあるらしく如著隨を見せて無智な女性を取り扱つて來た營業主等の手指は、決して心からなる優しゝてはなく彼等の手も指も頭も胸も軀の何の部分も判て出來上つて居るのであつて、彼等に傭はれて居る可憐なる女性の悉くは、僅かな目前の淡い享樂に身も心も奪はれて、逢ひウカウカと日を送り、淺墓な夢に惱惚いて自分の將來を考へる餘裕もなく、自由廢業などは全く打ち忘れて寧ろ反つて可愛がつて吳れる樓主に對して不義理だなどと、何うせ夢を見て居るのだから無理もないが愚劣な義理立てから益々深かみへ這入り、判て出來上つた人形を恰も救世主か何かのやうに今日まで信じ切つて來たのであつた。

けれども斯うした如夜叉の詐つて居た虛僞な親切が何時まで繼續されやうに、怎うして僞瞞な溫情が永く保たれやうに、猛獸は鋭い爪と牙とを恒に身邊から離さずに持つて居るではないか。判は依然判てある。蔽はれた薄い一枚の白布を取り去れば何時まで經つても同じ姿に身構へて居るに違ひない。彼等は何時かその判で刺されなければならない時機が必然來なければならないのである。

■經濟界の變動は何うしても彼等の身の上にも影響せずには居らない。而かもそれは最も鋭敏に直ちに極めて速かに影響し、纖弱い彼等を底知れぬ淵の深淵に突き落して仕舞つたのであつた。

身の上知らずの浮かれ男も流石に此の頃では次第に足が遠くなつて來た、樓主は採算上の大恐慌を來たさざるを得なくなつた。开處で恰度上官から叱られた故兵が新兵を苛め、新兵は更らに乘馬を撲り、馬は馬房の板圍を蹴るといふ順序で弱い者苛めをするのとは動機は假令し異つてもその心理狀態に於ては矢張り自己の不滿を放散し、少こしでも自分に都合の良い解釋をする爲めには弱い者苛めをするのは當然だと心得て居る點に於ては共通であらう。卽ち樓主と稱ふる判人形は算盤枕に唯だ默々と一人思案に暮れて居る程に斷じて殊勝てはない。少こし損失をしたと諦め切るほど徹底した宿命家でもない。彼等の恒として怎うしても、より辛辣なる營業策を考へずには居られない筈である。彼等は如何にしてより多くの客を取らんか。如何にして客の財囊を絞らんかに更らに苦慮したことであらう

■樓主と稱する判人形は先づ第一判を纖弱き女性に加へたのである。『お前が怠惰てゐるが爲めに此の頃は客が減つて仕舞つ。』と、浮かれ男の來なくなつた責任の全部は彼女等の双肩に荷負はらせれたのである。二判目には必然彼等は日々の食糧に依つて泣かせられることであらう。

一體斯ういふやうになつて來ては、幾くら浮かれ男だとて、そう懐中に金の有らう筈はない。先づ對手方の男が資本家から第一番に首を採ぎ取られて、三度のことにも懸念なく過ぐし得ない境遇に陷されたてあらう。その貧弱な財嚢の〻主が假令亡者となつて浮かれて往つたとて、食ひ飽なくなき樓主逹の胃の腑〻どうして滿されやう。开處で樓主は更らに惱める隷を鞭打つて『お前が鈍腕だから有る金も使はない』と責めて、酷使するといふ順序になるであらう。

■玆に於てか、今迄は我が愛き身を打ち忘れ、脂粉に粧を凝らして淫の生活をなして來た彼の女等も、甫めて自分が檻の中に監禁せられて居ることを知り、殊に故郷の空を望み疲れては竊かに涙を濡らすであらう、動物園の猿や猫は彼女等と同じ樣に檻の生活をして居ても普通の人以上の好遇を享けて居る。食物は勿論醫師の診療も彼の女等の比ではない。それを彼の女等が知つて、自ら生くべき途を求むる時機も遠くはあるまい然し彼の女等のうちには所謂自然[illegible]絶となり、自らを永久に葬る者は必ずしも絶無だとは言はれない。开處て世の識者は生きた形骸を横へるやうな悲壯慘酷な生き地獄の奴隷制度は、怎うしても緊急に取り拂ふ樣に一齊に眼覺めて貰はねばならぬ。而かも當さにその絶好期が到來したのであるから。（圭英生）

大正九年十一月十日印刷（毎月一回十日發行）
大正九年十一月十日發行（一部定價金二十錢）
編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　小石川區大塚窪町一番地　久保民生
印刷所　本鄕區眞砂町三十六番地　日東印刷株式會社
發行所　神田區表猿樂町十番地　廓清會發行所
電話神田四〇二〇番
振替東京二七〇七二番

◎御注文の際は必ず雜誌『廓清』による旨を申添を乞ふ◎

酒きらいになる藥

禁酒丸

一週分 一圓五十錢
二週分 二圓八十錢
三週分 四圓

どんな酒煙草のみでも害なく心からきらいになる。郵券二錢送れば説明書及大澤博士其他名士の

禁酒論 禁煙 進呈

禁煙藥

煙草きらいになる藥

金壹圓 金貳圓 金參圓

本舖 大阪南堀江二丁目 森田商店

電話土佐堀二六〇二番
振替大阪二二壹二六番

產婦人科・小兒科

女醫 鷲山改め 吉岡彌生

△院長診察 宅診午前・往診午後
△醫員診察 午後

產室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京市麹町區飯田町四丁目三十一番地

東京至誠病院

電話番町二二五七番

侯爵 大隈重信序
博士 プリンス・マロー著
文學士 小松武治譯

新刊

健康と性慾

三六版百七十頁
特價五拾錢税八錢

廓清會本部發行

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

●廣告主へ御用の際は必ず雜誌「廓清」による旨御申添を乞ふ●

THE NANKOIN HOSPITAL

Chigasaki, Koza-gori, Sagami. (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

Dr. K. TAKATA

Within a few minutes from the Chigasaki Raiway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone: Chigasaki No. 2.

副院長（新任）醫學士 岡本龜雄

診察毎朝（但祭日及日曜の他）

院長診察、月、木、金午前及木午後六時

林、峯間両副長は目下當院に在勤

東京三番町三十番地（市ケ谷見附上）

電話九段（六六二番 六六三番）

東洋内科醫院

院長 醫學博士 高田畊安

電話ちがさき二番

南湖院

相模國茅ケ崎海濱（從停車場半里）

河野、高橋両副長は目下當院に在勤

院長診察土曜日午後、入院診後應需

診察毎日午後 但祭日及日曜の他

◎募集——看護婦志願者及雜事婦

5—884
第十巻　廓　清　第十一號

（大正七年十一月一日第三種郵便物認可　大正九年十一月十日印刷納本）（毎月一回十日發行）

大賣捌所
東京堂、東海堂、上田屋、警醒社、北隆館、巖明堂

定價一册金二十錢

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廓　清　復刻版　全33冊

1980年6月30日　　一揃定価30万円

発行者　北　村　正　光

発行所　株式会社　龍　溪　書　舎

〒101　東京都千代田区神田小川町3-28-7
電話　03(233)0441(代)・振替東京3-76123

印刷・製本　日本プリントセンター

Digitized by Google　　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

COLUMBIA UNIVERSITY LIBRARIES

This book is due on the date indicated below, or at the expiration of a definite period after the date of borrowing, as provided by the library rules or by special arrangement with the Librarian in charge.

DATE BORROWED	DATE DUE	DATE BORROWED	DATE DUE
C28			

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY